

第三回館山市議定会例會會議錄（第二号）

# 第三回館山市議定会定例会會議録（第二号）目次

日	時	二
場	所	二
出席議員		二
欠席議員		三
出席説明員		三
出席事務局職員		四
議事日程		四
開議		四
行政一般質問		五
流山源次郎君の質問、当局の応答		二〇
渡辺軍治郎君の質問、当局の応答		三四
辻田実君の質問、当局の応答		五三
石井武敏君の質問、当局の応答		六二
安西益男君の質問、当局の応答		七三
散会		七四
本日の會議に付した事件		



### 第三回館山市議會定例会會議錄(第二号)

昭和四十六年九月招集

一、昭和四十六年九月二十日(月曜日)午前十時

一、館山市議會本會議場

一、出席議員 二十六名

一	番	吉田	勇治郎	三	番	流山	源次郎
四	番	鈴木	稔	五	番	近藤	好雄
六	番	栗原	一雄	七	番	渡辺	昭夫
八	番	石井	武敏	九	番	辻田	実
〇	番	渡辺	軍治郎	一	番	藤田	益治
三	番	五十嵐	昇	四	番	伊賀	多朗
五	番	和田	一郎	六	番	辻井	謹爾
七	番	宮野	敏朗	八	番	安西	益男
〇	番	君塚	喜三	一	番	鈴木	市藏
二	番	田村	源治郎	二	番	菊井	敏博
四	番	西村	真次	二	番	安沢	徳順
六	番	飯田	義男	二	番	望月	照正



二 八 番  
一、欠席議員 四名

田 中 祿 郎  
林 野 茂 樹 郎  
島 野 茂 樹 郎

一、出席説明員

本 間 哲 三 郎  
高 木 哲 三 郎  
小 沢 正 治 郎  
小 倉 澄 男 郎  
佐 野 甲 子 郎  
横 溝 功 郎  
石 井 憲 治 郎  
綱 島 重 義 郎  
大 嶋 重 義 郎  
池 田 春 雄 郎  
羽 山 房 雄 郎  
齊 藤 武 男 郎  
岩 田 武 男 郎  
汐 崎 政 光 郎  
川 上 賢 爾 郎

市 役 長  
収 入 役 長  
人 事 課 長  
庶 務 課 長  
市 民 課 長  
収 納 課 長  
農 産 課 長  
保 健 課 長  
水 道 課 長  
建 築 課 長  
市 民 セ ン タ ー 館 長  
福 祉 事 務 所 長  
消 防 本 部 次 長  
教 育 委 員 會 長  
庶 務 課 長  
教 育 委 員 會 長  
体 育 課 長

三 〇 番  
一 一 番  
二 九 番

速 山 日 本 子  
山 本 昇 郎  
秋 山 六 三 郎

助 役 長  
秘 書 課 長  
企 画 課 長  
財 政 課 長  
稅 務 課 長  
商 光 觀 光 課 長  
水 産 課 長  
衛 生 課 長  
土 木 課 長  
交 通 課 長  
国 体 室 長  
消 防 長  
教 育 委 員 會 長  
教 育 委 員 會 長  
学 校 教 育 課 長  
社 会 教 育 課 長

昌 山 博 雄 郎  
太 田 幸 太 郎  
伊 藤 幸 太 郎  
長 谷 川 治 郎  
越 路 良 夫 郎  
鈴 木 茂 生 郎  
谷 貝 茂 生 郎  
牧 野 喜 一 郎  
飯 田 治 一 郎  
山 口 治 一 郎  
小 宮 利 一 郎  
星 野 清 之 助 郎  
高 木 清 之 助 郎  
吉 田 隆 正 郎  
小 宮 義 夫 郎



選挙管理委員長 高山隆男

監査事務局長 榎本

(四) 繁

農業委員会 岩崎一郎

事務局長 高梨清一

書記 兵藤恭一

書記 渡辺弘

事務局長補佐 高尾 豊  
書記 錦織 睦子  
書記 川上 義雄

一、議事日程(才二号)

昭和四十六年九月二十日 午前十時開議

日程才一 行政一般質問

開 議 午前十時一分 開 議

○議長 (吉田勇治郎君) 本日の出席議員数二十三名、これより才三回市議会定例会才二日の会議を開会いたします。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。

行政一般質問

○議長 (吉田勇治郎君) 日程才一、これより通告による行政一般質問を行ないます。

締め切りの九月十五日正午までに提出のありました議員及びその要旨並びに順序はお手もとに配付のとおりであります。この際申し上げます。通告質問者は以上のとおりであります。他に関連質問等もあろうかと思いますが、本日は通告者のみの発言といたします。なお、発言の方法は最初の発言を二十分以内とし、執行当局の答弁は時間外、次の再質問は登弁を含め三十分以内といたします。



通告順に、流山源次郎君御登壇願います。

(三番議員流山源次郎君登壇) (拍手)

○三番 (流山源次郎君) 私、東京湾を中心といたしまして、その周辺の海域をこの水産業及び観光面両面に対しまして、その関連性を四項目に分けまして質問いたしたいと思います。

まず才一点といたしまして、海上公害についてでございます。皆さんすでに御承知のとおり、昭和四十年十二月の一日をもって、現在野島崎から静岡県伊東市川奈崎における線の以南及び館山市洲の崎を中心といたしまして、半径一〇、〇〇〇メートルの円を描いた以外にふん尿を処理するということが政令で定まっておりますが、現在船形、館山地区の漁船等が布良崎を離れまして大島の漁場に向うというときになりますと、なお現在操業に備えまして船の中で見ておってももう漁場が近づいてきたということをはっきりと皆さんが公言する。その原因は何かといえますと、布良崎を離れまして大島に行く途中の海域におきまして、現在館山市で行なっておりますところの藤原のふん尿処理場の近くを自動車なり、歩いて通るときになると非常に大きい大きなにおいがございますが、その何十倍のにおいが海上でこう然とあるのでございます。

この件でございますが、あとで通告質問と関連質問におきまして詳しいデータを出したいと思いますが、そういうわけで私どもきれいな海、きれいな水産ということを念願しておる館山におきまして、すでにもうちょっと目の届かないところでございますが、すでに現在はっきりと公表されております問題は、東京都、神奈川県、神奈川県の船によって四、〇〇〇トンのふん尿といいますが、し尿といいますが、これがなまのまま投棄されておる。しかし現実にはこの何倍かのものが投棄されておるのでございます。これに対し、また館山海等におきまして各河川から流されますビニールの袋等そういったものに対して漁船が冷却水の循環水をふさがれて機械に高熱を持つ。またスクリー等に巻きついて操業の非常にじゃまになる。このビニールの袋等が根にかかった場合には魚をけちらすというような非常に悪循環があるのでございますがこの問題。



さらには、市当局といたしましても、九月三日の毎日新聞等におきましてその新聞発表を見たことと思いますが、伊豆大島のきれいな海である伊豆大島におきまして、伊豆七島、八丈の南黒潮本流にかけましてタンカーから流されまする廃油でございます。これが一番きれいなところにおいて海水の中に一キログラム、一キロ平方メートルの海水に一キログラム、一番黒潮本流に近いところの八丈島の南においてはなんと四五キロの廃油が海水から抽出されたということが東京都水産試験所大島分場によつて今度の調査の結果が発表されております。

かかることにおきまして、この漁場との関連また観光地としましての関連はあとの最後の関連質問で申し上げたいと思っておりますが、以上の海上公害に対しまして、館山市といたしましては、現在までいかなる調査してきたか。また今後において千葉県、国または東京都、神奈川県に対していかなる態度をもつて折衝するか。市の考えを聞かしていただきたいと思ひます。

第二点といたしまして、西岬地区海岸に設置が内定しましたヨットハーバーの件でございますが、これは私ども今まで館山船形漁協の一理事といたしまして、館山市と一年有余のヨットハーバーの問題で相当交渉して参りました。その結果、館山地区といたしましては、ヨットハーバー建設の反対という線になつてしまつたために、現在若潮国体下の館山市主催のヨットの競技場に対しまして、ヨットハーバーが西岬地区に内定されたということはヨット競技関係者のそういった人に対しては非常に喜ばしいことと思ひますが、ただ問題は、これは館山船形漁協の第一種漁業権、第二種漁業権、第三種漁業権からはなれておりまして、西岬地区の漁業権内にあるということに対しましては、われわれといたしましては、公的には何ら意見をとなえることはできませんが、館山湾といたしましては、館山湾に操業する漁船がただ一つの操業の場所でございます。現在東京湾等におきましてだんだん汚染等によつて漁場が狭けられ、最後に残つた漁場が館山湾でございますが、この館山湾におきまして、レジャー用といたしましてヨットが国体を終つても今後は相当のものが館山湾内を走り回るものと思われまゝす。その点私どもはあくまでもヨットを走らしてはいかぬ。全然反対ということではないのでございますが、館山船形漁協と館山市との間において話し合われました反対の一つの大



二 中 四 四  
きな理由は、漁船が魚が見えたと、その魚をすぐ取らなければ魚はいつまでもそこにはいないのだという緊急の場合に、ヨットというものは御承知のとおり、風を頼りにしておるために早急の避難せういうものがなかなかむずかしいのでございます。その間におきまして、漁業の性質上魚が見えたら一ときも猶予がないということにおいて、ここにヨットと漁船との摩擦が生ずるということは目に見えたことでございます。

この点につきまして、市当局といたしましてもヨットハーバーの基地が西岬にできたんだということだけで関係業者との話し合いを無視するということなくして、今後漁業、観光の館山市百年の計にのっとりまして、お互いに話し合つてヨットの練習地域を設けるなり、また時間的に話し合つたりせうといったことの意見、見通しそういったものが館山市にございますかどうか。それをお聞きいたしたいと思います。

第三に、漁業振興対策についてでございます。館山市の漁業予算を見ますと、各項内の館山市の分担金これと漁船近代化に対する利子補給を取り除いた以外には非常に漁業予算として微々たるものでございます。現在館山市といたしましても、水産業の発展ということを大きな眼目にいたしまして水産課を独立したということをお聞いております。その館山市でございますが、今後漁協を育てまた養殖漁業等を行なう場合におきまして、この予算ではおそらくわれわれ考えまして非常に少ない。不満でございますが、これに対し、将来館山市といたしましても漁業予算をふやすということのお考えはございますかどうか。

さらに、クルマエビの昨年度百五十万という大きな莫大なる予算を使つて行ないました。クルマエビの放流の結果、その生育状況及びその今後の見通しを聞かしていただきたいと思ひます。

次に、栽培養殖事業に対する奨励資金増額及び漁船近代化による漁業者に対し、他県船と対抗すべき設備資金の借り入れ等に対し、市が漁業を守るという上からもこれらの問題にいかにかすべきか、計画があつたら教えていただきたいと思ひます。

第四点といたしまして、排水溝の船形港内流出修正について。御承知のとおり、船形港が現在の埋立地をつくるため



にやむを得ず館山市の排水溝を港の外に流しておったものを、旧漁港内にとりあえず一時応急処置といたしまして流れ込みをはかりました。その結果、現在船形地区といたしまして埋立地が完成いたしましたにもかかわらず、そのまま依然としてその排水溝が流されておる。そのために、せっかく港をしゅんせつ工事をして港を深くしても一年足らずの間にまたものもくあみの中に港が埋まってしまふということを繰り返してきただけでございますが、それに対しまして、私どもも館山船形漁協の理事といたしまして、たびたび漁港管理委員会等をもって市に対してその修正方を要望してきただけでございますが、とにかく埋め立てが完成してある程度目安がついたら直すというような答弁であつたのでございますが、最近になりまして県といたしましては、排水溝は館山市の市営のものである。だから細部の責任が市にあるような言葉をもちており、また市といたしましては、県が埋め立て事業をやるためにそこにおいてその排水溝を現在のようなものにしたのであつて、一応県といたしましては、埋め立てのために修正した排水溝はもとに戻すべきが県の責任であるというようなことが聞かされておる次第でございます。

私どもといたしましては、ここで訴えたいことは、ご存じのとおり、船形のあぐり船でございますが、この漁船が朝二時から、午前二時から出漁いたしまして昼前後に八時間労働前後の時間をついやして入港してくるのでございます。そのときに、現在でも少なくなりつつある漁業労働者に対して、八時間労働というのは従業員組合と船主との話し合いによつてなるべく労働力を確保しようというやうな面で話し合いになりまして、大体八時間労働を履行されつつありますが、これで朝二時からくらくらいうちから起きて、人の寝ている間に働いて帰ってきて、さて港に船をつけて自分からだを休めたいという段階になつて、船が港の中で立ち往生してしまつた。また港の浅瀬のためにスクリーンが回つたりいろいろ害がございまして、せっかくの八時間労働が十時間、十二時間になることはざらでございます。こういう漁船の従業員の立場を考えましたときに、また船主といたしましてたびたびスクリーンの接触という事件がございしますが、こういうことの一たんが現在流出の排水溝のための浅瀬ができておるのでございます。

さらに、この流出溝が船形港に流れ込むために、各家庭から現在化学製品等におきましますところのいろいろの物質が



流れてくるのでございますが、現在市場におきましては、市場を清掃するのにこの水を使っております。また魚等を洗ったり、また魚を入れる容器等をこの水を使用してあるのでございます。これが汚染された場合には、その一般の消費者に与える害というものは非常に大きなものがあるのでございますが、結局海に通ずる排水溝を県なり市がお互いに責任のなすり合いをしておる関係におきましては大きな被害を出すことと思いますが、これに對しまして、なにか私どもの聞くところによりますれば、市においてもある程度の予算措置はするということのような話は聞いておりますが、これの話だけでなくして実行に移して一日も早くそれを取り除いていただきたいということを要望いたしまして、四点にわたる私の通告質問を終わりたいと思います。

○ 議長 (吉田勇治郎君) 市長の答弁を求めます。御登壇願います。

(市長本間 譲君登壇)

○ 市長 (本間 譲君) 議員の方々五名の方々から通告質問がございしますが、私が答弁いたしましたして足りない点また補足すべき点につきましては、関係課長をして答弁をいたさせていただきますので、あらかじめ御了承を願いたいと存じます。

まず、流山議員さんの海上公害についてのことでございますが、海洋の汚染源としては油、工場排水、各種の廃棄物及び都市下水等があげられますが、これらに基因する海洋汚染の現状は油につきましては産業経済の発展と生活水準の向上に伴い石油の需要は年々増大し、また船舶の往来も増加しつつあり、海上保安庁が把握したところによりますと、海洋汚染発生件数は昭和四十一年度は百七件であったものが、昭和四十四年には三百四十九件と急増しております。

ふん尿の海洋投棄につきましては、全国的には下水道整備の進捗により便所の水洗化が進んでおりますが、現在なお相当量のふん尿が海洋投棄されている現状であります。その他ビニールをはじめプラスチック類の廃棄物が海洋に投棄または流入し、海水を汚染しておりますことは御指摘のとおりであります。

今までの海岸汚染に対する防止措置でありますが、数年前に館山市から富津町に至る間の市町村長並びに館山市から保田町までの沿岸各漁業協同組合長等が連署の上、漁協、市町村別の陳情書を国、県当局並びに国会の関係委員会とそ



の委員長等にそれぞれ提出し、水産資源の確保と観光資源を擁護する為のし尿投棄による被害防止について善処方を陳情いたしております。

また、廃油等が当市の海域に漂流した際にその都度県当局に対し取り締まりを要請するとともに、市独自で防除措置を講じて参りました。今後におけるこの対策につきましては、新たに制定された海洋汚染防止法並びに廃棄物の処理及び清掃に関する法律により海の汚染に対しきびしい規則が適用されることとなりますので、防止の実があげられるものと考えられます。市当局としては、汚染の実情によっては国、県等の研究、調査資料に基づき、漁協、観光協会の方々といろいろ相談してその結果、関係筋に対しまして陳情して除去したいと考えておる次第でございます。

一方、市の海域に流入する河川の水質検査を実施して水質の浄化をはかるとともに、川や海洋への廃棄物の不法投棄を取り締まり、もって生活環境の保全につとめる所存であります。

次に、西岬地区海岸に設置が内定したヨットハーバーについてであります。これは県が設置するわけでございますが、地元としてはまず漁業者のことを考えることが一番大事でありまして、また次に観光関係も考えるべきではないかと思ひますが、そういう意味におきまして先ほど来もそのことについて県といろいろ相談したんですが、これが設置になつて国体が終つたならば、県を中心として漁協の方々それから県と市とで委員をつくりまして、この管理、運営について漁業に支障のないようにいたしたいと県と話し合つたわけでございますが、その線にそつて参りたいと存じます。そうして大事な漁業に支障をきたさないようにするとともに、観光産業もそれについてよくやれるようにいたしたいと考えておるわけでございます。

それから、漁業振興対策の御質問でございますが、はじめのイについては、漁業関係予算を除けば残り漁業予算が少ないので、今後予算の増額を考えるべきではないかということであります。目下漁業振興として最も重要視されておりますことは、漁業の近代化をはかるということとでそのために基盤の整備や構造改善事業の推進が急務であり、その基盤整備として第一に漁港の整備があげられるわけで、必然予算も重点的に漁港にそそがれておることとなり、結果的に



中 座間

は他の予算が比較されると思います。しかしながら、予算につきましても栽培漁業の振興を中心として国や県からの助成対象事業はつとめて受け入れ市も応分の補助をつけて実施して参っているわけで、今後漁協の意見等十分に拝聴しながら必要あらば御指摘のように増額を考えて参る所存でございます。

次に、クルマエビの放流結果についての御質問でございますが、クルマエビの種苗放流につきましては昨年九月天羽漁協から百五十万尾購入し、そのうち水産試験所で三千匹を左目を切り標識放流した次第であります。追跡調査につきましては、地元組合と打ち合わせの上、これが漁業者に魚獲した場合に報告をいただくということで目下その報告を集めさせておりますが、また本年八月末までに水揚げされたものを取りまとめた結果は四〇〇キロ余りとなっております。標識放流分について現在まで四〇匹水揚げされており、放流総数としての比較は一・三%、成長度合いは最小で一三乃至一四センチの約四〇グラム、最大で二四乃至二五センチの約一六〇グラム、平均では二〇センチ前後で約一〇〇グラムとなっております。したがって、標識放流分から推定いたしますと、その成長度からいって二、〇〇〇キロからの水揚げが考えられるわけでありますが、報告されないものが相当あることと推定できます。実際には先ほど申し上げました四〇〇キロ余の二倍以上は水揚げされているものと考えております。しかし、なお今後も相当魚獲期間がありますので、最終結果は後日機会を見て報告させていただきますが、いずれにいたしましても、従来年間一〇〇キロ程度しか水揚げされなかったことを考え合わせますと、非常に良好な成績をおさめておるものと思っております。なお、本年は七月七日と九日の二日間にわたり百五十万尾を放流してありますので、放流時期と成長程度あるいは昨年と本年放流の比較検討もできますので貴重な成績、資料が得られるものと期待しております。

それから、栽培養殖事業についてのお尋ねでございますのでお答えいたします。栽培養殖事業につきましては、業種によつて国、県等の助成率が異なると思いますが、たとえば、魚床設置や投石事業等は全事業費の六分の五も補助があり、国や県がいかに積極的に奨励しているかがわれ、当市もこれに対して補助しております。全事業費からすれば補助率はいいので当市の補助率は現状で御了承願ひ、七の反面国や県にあまり助成を得られない事業に奨励すべき事



業がありますならば、その時点時点で特別に考慮して参りたいとこのように考えておりますので、現段階での増額は御了承願いたいと存じます。

近代化による設備資金についての御質問でありますが、中小漁業金融融資法に基づく千葉県漁業信用基金協会に加入し、当市としては百三十万出資して漁業者の資金借り入れを有利にする道を開いておりますが、そのほかに当市は本市単独で中小企業預託融資同様漁業者にも恩恵を検討したこともありませんが、工業者と異なり漁業は安定性を欠くということで金融機関から敬遠されておりますので、今のところは計画を持っておりませんが、今後の近代化金融制度の運用を少しでも漁業者に有利にしていただくよう働きかけそれらによる制度を活用していただきたいと考えております。

船形漁港の排水溝の流出修正についてでございますが、船形漁港内に排水されている排水溝は、以前は船形港の東側に対し港外に排水されていましたが、船形港埋め立てのため暫定的な処置として旧船形港に排水するよう県において施行されたものであります。しかしながら、埋め立て完了後も排水溝の位置を変更することなく現在に至っております。そのために港内の海水が汚染されておりこのまま放置されべき問題ではありまませんので、港外に排水されるよう県に対し善処方を要望したいと考えております。

以上申し上げまして、流山議員さんの御質問にお答えいたしましたわけでございます。よろしくどうぞ。

○ 三番 (流山源次郎君) 　ただいま市長さんのほうから私の出しました四項目について非常に細かく御答弁をいただきました。ありがとうございます。

現在、市といたしまして私の出しました漁業問題に対してこれだけ力こぶを入れておるといことがわかりました。私といたしまして、さらに館山の水産業、観光面に対しましてなお一そうの努力が必要ではないかというように見解のもとに関連質問をいたしたいと思っております。

まず、先ほど申し上げましたし尿投棄の件でございますが、私三年前に入手いたしました資料でございますが、まず第一点には投棄船のトン数または現在どれぐらい館山の野島沖にそのままのふん尿が投棄されておるかという参考に



なると思ひまして申し上げます。現在東京都が直営しておりますものがおとり九九九トン、千代田丸七〇〇トン、紫丸五五〇トン、武蔵野丸四四〇トン、東京都の業者といたしまして東海運輸株式会社三隻持っております、これが合計で三八〇トン、大東組これが一隻持っておりますして九九九トン、それから横浜市でございますが、これが神奈川汽船株式会社これが二隻で一、四〇〇トン、それから加藤衛生部四〇〇トン、それから横瀬海運が四〇〇トン、新和海運が四一二トン、それから川崎市でございますが、清川丸船団が三隻でもって六〇〇トンこういうふん尿投棄船の所有量をもっておりますでございますが、ふん尿投棄はこれに対する一・五倍がふん尿として捨てられて、これが二十四時間ひっきりなしに館山沖洲の崎半径一〇、〇〇〇メートルの沖合いに投棄されるのでございまして、その総トン数が約三年前でございますが一、四六〇トン。この場合にちよつと皆さんはつきりとした実感がつかめないと思ひますが、現在館山の藤原のふん尿処理場でございますが、これができるときには各漁業関係者が非常な反対をしたというのを聞いております。それで、現在この藤原地区から完全に殺菌消毒したものが平砂浦に流される数が一日にわずかに一トンまでいかなないのでございます。それを考えた場合に一〇、〇〇〇メートルといってもわずかに二里ちよつと、洲の崎から二里ちよつとの沖合いにまのままのふん尿というものが、全然処理されてないものが一、四六〇トン毎日毎日二十四時間捨てられておるといふ事実は、ただ単に沖合いの問題ということでなくして、これから大いに観光面、漁業面に対してきれいな海を確保するといふ館山市にとっては非常に大きな問題になると思ひます。

これに対して、前に千倉町から出身してありました鈴木惣之助県会議員はくそ議員といわれるほどこれに対して県当局に相当突込んだものでございますが、このために前東京都の東知事さんに対して県といたしましても海に捨てるのをやめて陸上施設をつくってくれといふ要望で、東京都といたしましても順次それに向つて陸上施設をといふ確約があったと聞いておりますが、現在においては美濃部さんはふん尿投棄船をふやしておりますのでございます。現在各造船所に入つた情報によりますと、現在よりも投棄船をふやすといふことは、陸上施設よりもますます海上施設をふやしております。



現在、水産試験所等におきまして話を聞きますと、四、〇〇〇トンぐらいだからしょうがないだろうといっておりますが、現在この事実にあるとおりこれだけの船が捨てられますのは、三倍以上のものが館山沖に投棄されておるといふ現実がございまして、この点に對しまして直接影響をこゝむるのは館山市でございまして、館山市といなしまして直接単に陳情するといふようなことでなくて、委員会なりせういふものを発足して早急にこれに對する対策せういふものをつくるべきではないかと思ひます。

それから、先ほど説明をちよつと落しましたが、産業廃棄物でございします。放射性物質とか廃油、酸、アルカリこれが船が捨てゐる以外に各工業地帯から汽船によつて大島沖に捨てられておるといふこと、これは法令できまつておりましてやっております。それで、先ほど市長さんの答弁の中で海洋汚濁防止法案というものが現在国で審議されて、これは大体来年の九月頃には発足すると思ひますが、これに對しまして私ども漁民といまして非常に不満なことは、この海洋汚濁防止法案の前に海水汚濁防止法案がございましたが、これは館山の領海地点五〇マイル、五〇海里沖合いから今までは二〇、〇〇〇トン以下のタンカー船といましては、たれ流しは目をつぶつて認めておつたのでございしますが、今度の海洋汚濁防止法といましては、今までのそれが積もり積もつて油くさい魚、油くさいカツオそういったもので全国の漁連で発表いたしましたものには魚の魚獲量、またそれに対する油に対する魚網の被害、漁船、器具せういふものをひくく二千萬円の損害がはつきりしておるといふことはせんだつての新聞に全国の漁連から発表されております。せういふ油を捨てるといふことはどうにも漁民としてはがまんできない問題でございしますが、これに對しまして、今後の海洋汚濁防止法の中には領海地点から五〇海里、船形の場合におきまして一海里について六〇リットルずつの廃油、重油とかバラスト等を捨ててもいいということが項目うたわれたのでございまして、これに對しまして私考えますには、確かに一海里に對して六〇リットルといひますとわずかのものではございしますが、結局これを各タンカー船が東南アジアまたアメリカ等に行く場合にも監視船がそばについているかどうか。そこにおいて一海里六〇リットルだれでも見てなければ、これだけ捨てていいという条文がある限りはかこぬけの法案も同じでございします。こゝにい



たものがあるということは漁民として今後の大きな問題でございますので、こういった点もただこういう防止法案ができたという安心感でなくて、館山市としても十分に公害に対する委員会を結成しまして、徹底的に究明するということがわれわれ水産業に生き、観光で生きる館山市の大きな問題ではないかと思っております。

これに對しまして、市長さんといましては、今後公害に対する積極的な取り組み、そういったものに対して委員会なりそういったものをつくって館山市でもやっていくかどうか。その考えを聞かしていただきたいと思っております。

○市長（本間 譲君） 流山議員さんから非常に検討がいきとどいたしろうとでもわかる御説明をいただきまして、たいへん感謝をいたしておるわけでございます。この問題につきましては、やはり漁業組合の方々とよく相談して国あるいは県関係者に陳情すべきものは陳情する。そういう措置を講じて参りたいと存じます。

それから、公害問題につきましては、私は今まで館山市は河川公害、海の公害ということを自分では感じておったんですが、これからは海の公害についてはお説のように相当考えなければこれは間に合わない。こういうことでございます。館山市におきましても、公害の委員会をつくってやろうとして二、三カ月前計画したんですが、県で公害条例をつくってその中においてやるからというふうな意見もあったんですが、これを機会に館山市は館山市独自で公害委員会等をつくりまして、広く市民特に漁業関係については漁業者の意見を聞いてその中で種々検討して参りたい。こういうふうに考えております。

それからもう一つ、栽培漁業につきましては、私はしろうとでよくわかりませんが、漁業は非常に今はあらゆる面で恵まれないことが多くて、まあ降線をたどっておるような面もあるのではないかと思います。エビの放流をやったり、ノリをやっておりますが、これは今すぐのことではありませんが、私はしろうととして栽培センターみたいなものを市が予算が許せばよそから買わずにもとのものをふ化させて、沿岸に養殖するということも考えべきではないかと思いますが、これはただ構想にすぎませんが、いづれにしましても業者の方々のいろいろ御意見によりまして対策をこれからやってりつぱな漁業を、下降線では相ならぬわけですから対処したいと考えております。



## ○ 三番 (流山源次郎君)

四項目に分けました質問の内容でもっとくわしく積極的にお聞きしたいんですが、時間の関係上、もうあらましごさいませんが、最後に水産課に対して質問いたしまして私の関連質問を終りたいと思いますが、水産課といたしましては、先ほど市長さんの報告のとおり、クルマエビが平年作といいますが、放流する以前よりも約二倍のものが成果があったという報告でございしますが、私自体においてクルマエビの関係業者と話し合ったのでございしますが、この二倍ということが、それは各自いろいろ見方がございまいしょうが、現在昨年度このクルマエビの補護をしてある業者が今年には相当休んでやめておるといふ一点は、昨年並みの業者が働いて業者が昨年並みに倍以上の魚獲を上げたということならば、これは私当然だまって二倍の魚獲があった。成果があったと思われるのでございしますが、実際問題といたしましては、約六・五割の就業率あとの三・五割の方は操業を休んで今年はやらなかったという事実でございしますが、この点についても十分に今後研究課題になると思います。

それから、問題になるのは、市に報告するものの一人一人あたってみますと、クルマエビの施設は水産課のほうでは十分専門家だからわかると思いますが、クルマエビは大体放流した場所から四キロ以内に生息するというのが学説になっておりますが、このクルマエビを放流した区域で操業を年じゅうあまりほかに離れてやらないで、離れてもわずか一キロか二キロというところを専門にして操業をやっていた人たちは不作なんで去年より。ところが去年より倍の収獲があったという人は、この方は広い範囲で富浦湾から船形の下、野房の下そこの広い範囲で操業してある業者でございしますが、かかる点についてもやはり一がい二倍の魚獲があったということで片づける問題ではないと思いますが、これに対して市としても今後十二分なる研究とかそういういたったものが必要だと思います。

それから、第二点といたしましては、養殖事業でございしますが、これも昨年度は市で奨励いたしましたノリが館山地区はまああの線で、船形地区は潮流の関係または気温の関係で非常に失敗してしまっただけというときに、館山市から出されました補助金が、それを漁協と水産試験所で試験したものの成果を自分のものにするために始めた事業が、その人たちが救われたという事実がございします。



ただ、この場合に私いうのはホタテガイの件でございます。これは昨年度は援助がなかったのでございます。たまたまこれは見解の相違になるかもしれませんが、市の水産課あたりでは船形漁協に対して漁協が試験をやる場合には、館山市といえましては援助をしましょう。補助を出しましょうという考えのようでございますが、私、これは個人の手に移ったといっても現在船形漁協、水産試験場等でやったのは、館山湾で北海道から持ってきた寒い水温の低い貝が果して育つかどうか。そういう実験でございまして、これを現在の業者にゆだねられたということは、現在の業者が試験でなくて自分の生活に合うために何万個という大きな数を持ってきて、それを今度ホテルなり、消費者にいかさばくかという大きな問題が残っておりますのでございまして、これがもう目の前に利益が見えておるということに對して補償金とかいうことでなくて、この方たちが自分の苦しい中から失敗してもよい。とにかくやろうということと今後一つのホタテガイという館山湾で成功されましたホタテガイの商品価値といえまして大きな問題になると思うのでございますが、これに對しまして今のところまだ水産課とは十分話し合っておりませんが、また聞き等の話によりますと、漁協でやってないから、個人だから援助がないというような話でございしますが、県の水産課自体でございしますが、一つの貝に對してやっておる人に二円の補助を出すということは県でも内定しておるということでございまして、私、このホタテガイにただ単に援助をするということではございません。

現在、青森県におきましては千六百三十六万九千個が養殖されております。青森県の陸奥湾でございしますが、館山湾の何倍という広い湾に、実ははつきりいいますと魚が一匹もいなくなりました。これに對して定置網をやっております業者が死活問題になったということで、業者が天然に青森県に生息しておったホタテガイを養殖に切りかえまして、現在かかる大きな成果を上げておる。岩手県におきましても千三百万個、宮城県におきましては七百万個の貝の養殖が行なわれておるのでございますが、館山湾というところは北海道、青森県で一年かかるものをわずかに四月で成長してしまふという非常にいい環境でございます。

これに對して、また館山地区の漁協が県の第一回の指名によりまして青森県、北海道等に視察に行つてホタテガイの



養殖に学んできたのでございますが、その一番最初の出発点の館山であつて、現在非常にいい環境のある館山市にわすかに今までは一万個乃至一万五千個、今年においては三万個という線が出ておるのでございますが、現在館山湾というものはあぐり網である程度ホタテの養殖する場所が制限されるという関係もございしますが、市として考えてもらいたいことは海の関係でございまして、年々館山湾に入ってくる魚の魚種が少なくなつてきておるといふことをにらみ合わせ、将来青森県の陸奥湾の二の舞いになつて魚が一匹もこなくなつた。こういう状況になつた場合に館山湾という海がある限りにおいては岩手県、宮城県並みのホタテの養殖ができるということになります。そうしますと、その水揚げ高は現在のおぐりのあげる金額に匹敵するものが館山湾で楽に実施ができるということになります。

県が水産課をわざわざつくつて水産業を今後発展させるという大きな意味にも合致すると思つてございます。ただ現在やつておるのは漁協をはなれて一般の業者であるから援助しないと、か、そういう肝っ玉の小さいことでなく大きな意味で今後の館山の水産を取る漁業から育てる漁業を育てるといふ大きな目的の一つといつたしまして、ホタテの養殖に対する業者に對しても市といつたしましては思ひきつた予算の設置をお願いしたい次第でございします。

また、最後にもう一点、時間がございせんが、申し上げたいことは漁船でございしますが、館山湾にある漁船の例でございしますが、これは漁船近代化というものが非常に急速に発展してきました、各業者が今の新しい漁船化、機械化に對して非常に追いつくにせいいっぱいの状態でございまして、その業者が自分の全財産をはたいて漁協の援助等におきまして近代化資金を借りまして、自分の全財産と能力でやつたのが現在の近代化の船でございします。これがせいいっぱいでございします。

ところが、今年の七月でございします。船形漁協になんと四国の土佐の船が五トン未満の船でございまして、この船が野島沖でくさんとおやじさんと二人で黒潮に乗つて操業しておる。この船が一日で船形に八十万の水揚げをしたのでございします。カジキ、マグロ、カツオそういったものでトロール専門の船でございしますが、トローリングでなく一本釣りでございします。現在の非常に新しい漁法でございします。これを船形漁民が近代化の船をもつて、近代化の機械をもつ



て指をくわえて自分の目の前に大きな漁があるのを指をくわえて見てなければならぬという現実がございまして、これというのは、もう漁船をつくる、機械をつくるのにせいいっぱいだという事態において、近代化の設備をしたわずかくさんとおやじさんの二人で土佐から黒潮に乗ってやってきて目先で八十万も、九十万もの水揚げを船形の漁民の前でやってゐる。船形の漁民は自分の力ではこれ以上の設備する資金が手いっばいでございまして、それに対して私は市に対して他船団の他と拮抗するだけの漁をするのに、ある程度市が漁民に対して保証してやるから金融機関からそれだけのものをするということがなければとても船形の一本釣り乃至あぐりもそうでございまして。あぐりは日本一のあぐりといわれたのは終戦後の四、五年でございまして、現在ではほとんどけつから数えられないような設備でございまして。こういうことを考えまして、今後市といえしましても十分な対策をお願いしたいと思ひます。以上の点について水産課より一言御回答をいただきたいと思ひます。

○ 水産課長 (谷貝茂生君) クルマエビの生息の問題でございしますが、私も実は本当の専門的な立場でございせんけれども、やはり文献を見たりあるいは試験所等に参加していろいろ話し合いの中で、ただ大体四キロ以内より移動しないということがありますが、砂質であれば砂質のところだけは移動するということとございまして、海面ではっきりと四キロ以上に移動するということは、あるなしということはまだ私もはっきりと様子は承知しておりませんが、試験所の話ではキロ数においては制限はない。ただ、砂続きの場合にはそれだけは移動していくということは出ておりますが、今までの成績を見ますと、数字でございしますが、これからまだ先期間もございまして、私のほうも業者のほうに頼みましていつどこで何匹どのぐらいの目方のものが取れたか集計しておりますが、集計等の今までの結果から申し上げたわけでございます。今後まだ漁期もございしますので、詳しいデータは今後ある機会に発表したいと思ひます。御了承いただきたいと思ひます。

それから、ホタテガイの件でございしますが、市で助成なりあるいはめんどろをみる場合には、あくまでも市費でございしますので公共性、公益性をういったものをあくまでも考えていかなければならないと思ひます。ただ、個人的な方に



対する助成という場合であってもそれが特に個人に補助してもそれがひいては一つの公益性につながっていくというよりな含みがございいますれば考えていかなくちやなぬと思ひますが、ホタテガイにつきましては、今までの成績も越夏試験は失敗しております。試験所もこの試験はやっておりますが、青森のほうから持ってきてそのまま即売しても経済的に損はないという状況から見まして、一時的に飼育をして多少でもそれを太らせるということであればさらにプラスになるわけでございしますので、今までないところにこうしたもののが産業的にプラスになるということができれば、今後の課題として私どものほうで検討させていただきたいと思ひます。

○ 三番 (流山源次郎君) 時間をオーバーしておそれいます。水産課長から話がございましたホタテの件でございしますが、現在個人の業者に二、三のものに委託されておりますが、昨年度その業者が北海道から運んでくるときに、運ぶ技術の問題で半分が死滅してしまつたんです。一個十八円から二十円の貝を買って館山市に持ってくるうちに半分死んでしまつた。今年はわずかに上総湊から館山まで十八万個の貝を運ぶのに業者がしりごみしてだめだ。冷凍車で運んでくれる業者がないということで非常に頭を悩まされておりました、そういうことも参考として申し上げます。以上です。ありがとうございます。

○ 議長 (吉田勇治郎君) 暫時休憩いたします。

午前十一時 七分 休 憩

午前十一時十九分 再 開

○ 議長 (吉田勇治郎君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

渡辺軍治郎君御登壇願ひます。

(一〇番議員渡辺軍治郎君登壇)

○ 一〇番 (渡辺軍治郎君) 私はこれから申し上げます次の三問について御質問申し上げたいと思ひます。

第一問は四十七年度の予算の編成期に入りますので質問するわけですが、市長は六月の市議会ではブルの寄付は強制



しない。寄付が集まらなければ追加予算を組んでやると約束しましたが、その後の進行状況はどうなっているか、お聞きしたいと思います。

最近、四中のブルの寄付が一戸当たり九千百円割り当てられています。市民の中からは教育施設に対する割り当て寄付についての廃止の請願書が三千二百十三名の署名をもって提出されています。予算書を見ると学校建設費、道路舗装費等一般財源の不足を寄付に求めています。六月議会でも指摘したように地方財政法第四条の五項に違反しています。また自治庁通達でも「その収入が欠くことのできないものである場合には、税として徴収し、住民相互の負担を公明かつ合理的ならしめるよう努力するとともに一般財源の不足を寄付に求め、これを住民に割り当てて強制的に徴収してはならない。」このように指示しています。市長は、この議会の報告でも住民負担の軽減につとめてきたといっております。そこで、四十七年度の予算を編成するにあたり一般財源の不足を寄付に求めるのかどうか、お伺いしたいと思います。

第二問は、水道事業の公営化についてでございますが、館山市の水道は三芳水道、房州水道、市営の西岬、南部、西部、南条の簡易水道に分れているが、三芳水道を除けばいずれも水源にとほしく夏季には時間給水をしなければならぬような状態です。房州水道は三芳水道から水の補給をしても水圧が低いために高いところや配管の多いところは水が出ないので市民にたいへん迷惑をかけています。このような現状と将来水の需要の伸びを考えますと放置できないところまできています。

そこで、水道事業を公営にして抜本的な対策が必要だと考えますがどうでしょう。市長は水道事業の市営には反対のようですが、その理由を明らかにしてください。なお、中央ダムは農業用水ですが、余水の利用について丸山、千倉、鋸南等より申請が出されていると聞いております。館山市は中央ダムに対して約二億二千万の債務補償をしていると聞いていますが、余水の利用について申請すべきだと考えますがどうですか。以上をお尋ねします。

第三問は、館山小学校教諭鈴木英明君が八月二十九日スイミングクラブの要請で市の管理する室内プールで水泳指導



中、電気時計による感電事故について質問します。

この事故の究明についてはなくなられた鈴木英明君の冥福のためにも、また御遺族の心痛にこたえるためにもその責任の所在を明らかにし、相当の処置をしなければならぬというのが全体の意思だと考えます。したがって、第一点は事故の起こった原因から見て過失責任はどこにあるのか。第二点は過失責任に対する賠償をどのようにするのか。こういうことについてお伺いします。

九月十四日の全員協議会で調査委員会の間接報告がありました。報告では警察が取り調べ中なのでその結果を待つて対処したいとのことですが、このような事故の原因究明に対する調査委員会の自主性のない消極的態度から見て問題の本質をつかえないおぼろげさが感じられます。調査委員会の報告による事実関係から見ると鈴木君が倒れた位置はコンセントの取りつけられている壁から二メートル離れたところで、死体の下にコードのにぎりスイッチがあり、このスイッチから感電死したものと推定しています。その原因はコードのプラグがコンセントに正規に差し込まれていなかったために一〇〇ボルトの電圧がにぎりスイッチにアースに通じたことを実験で証明しています。

問題は、どうして差し違いが起ったのか。一部の新聞等は取り扱い者の不注意であるかのような印象を与えていますが、私が警察で過失責任がどこにあるのか聞いたところでは、電気専門家の意見を聞いてみないと結論が出ないとのことでした。そこで、私は、三人の電気専門家をおたずねして聞いてみました。三人ともこの種のプラグは差し違いが起らないように差し込む足の太さ、角度、間隔がそれぞれ違うようにつくられているので、構造上差し違いが起るとは考えられない。今日では電気は危険なものではなく、だれが使っても安全にできるようになっているといっていました。おそらくだれもがこんな事故が起ころうとは予期していなかったことと思います。しかし、事実はプラグの差し違いが現実の起っているのです。鈴木君が力で押したとしてもプラグとコンセントに構造上の欠陥がなかったら力で押してもプラグは差し込めなかったはずですが。ここに問題点の第一があると思います。

次に、プラグとコンセントの装置についてですが、報告ではスポーツタイマーはセイコー合製で一セットの組み合わせ



せであつたものをプールから見やすいように時計を固定式に設計変更をしています。交流式は全体としてプラグの側に差し込む足があつて、コンセントの穴は絶縁体でおおわれているのが普通です。この装置は逆にコンセントの側に足が四本あり、しかも直径一五ミリという小さなもので絶縁体もなく露出したままで防護板がありません。電気のスイッチもコンセントのすぐ上にあり、取り扱いを誤まつて電気のスイッチを先に入れてコンセントに触れば感電する危険な状態になっています。しかもプールという感電しやすい悪条件の中で全く安全性が考慮されていないずさんな装置のよう

うに考えられます。

これらの点から見て第一の過失責任はこのスポーツタイマーをつくつたセイコー舎にあると考えられます。次に装置を梅という下請に出した杜和産商にあると思いますがどうでしょうか。報告では、鈴木君がプラグを力で押し込んだ本人の過失のような印象を受けましたが、鈴木君は被害者であつて主客転倒のように思いますが、どうでしょうか。過失責任が前述の会社側にあるとすれば、市としては被害者の遺族が満足できるような賠償を会社側と交渉する責任があると考えますがどうでしょうか。

次に、管理上の問題について責任がないとはいへませんが、これは第二義的のものだと思ひます。スポーツタイマーが一般的に使われるのをおそれてコードを取りはずして保管し、特定の人に使わせるというやり方からみると、プラグの差し込みを確認してから電源スイッチを入れれば事故は未然に防げたはずですが、これは結果論で問題の焦点から離れますので、以上で質問を終わります。

(市長本間 譲君登壇)

○ 市長 (本間 譲君) 渡辺議員さんの御質問に対しまして答弁を申し上げたいと存じます。

四十七年度予算編成について寄付金の問題をどうか。こういうことであるようですが、道路舗装、学校施設等に対して御寄付のあつた場合はありがたうだいいたしております。本年度も若干はあると存じます。寄付金自体は法律に違反していないと考えております。



次に、水道問題でございますが、水道は市民の日常生活に欠くことのできない公益事業であります。現在、市内には市営、官営水道の宮城、南条、西岬、南部と今工事を施行中である西部の各簡易水道の五施設と 企業団及び会社経営による上水道があり、水源もそれぞれ地下水、ダム等を利用しております。

水道の公営一元化については、現在の房州水道、市営水道及び三芳水道企業団の三者を含めて県営化することが最もよい方法だと考えております。水道事業の経営には水源確保の困難性等、改良に巨額の経費を要する問題、さらには財政上の困難性等総合的な観点から三者一括して県営移管が最も適当な方法と考えるわけであります。この県営移管についてはなかなかむずかしい問題であります。住民福祉の向上をはかるためにはぜひ必要なことでありますので、今後できる限り早期実現を期して一七〇の努力を尽す所存でございます。

第二点の市営化のことですが、ただいま述べました考え方から現状では市営化よりも県営化移管が最も適切と考えるわけであります。

第三点の中央ダム余剰水利用についてでございますが、御承知のとおり、中央ダムは農業用ダムで二一〇万トンの貯水能力を有するきわめて大きな水源施設であります。このダムの余剰水利用については御意見のとおり将来水道用水としてこれを利用していく考え方であります。しかし、同事業は現在施行中のことでありますので、今これを利用するか、申請するとかいうようなことは、まだその時期ではないと思います。このことにつきましては、完成時点において余剰水があった場合、関係機関と協議して多目的の有効的な利用をいたしたく考えております。

それから、第三の館山小学校教諭鈴木英明君の室内プールでの感電事故については、事故の起こった原因からみて過失責任がどこにあるのかとお尋ねでございますが、八月二十九日午後二時三十分頃温水プールで館山スイミングクラブの上級コースを指導されていた鈴木先生が感電死されたことに対してはまことに遺憾に考えておりまして、心から弔意を表したいと在ずる次第でございます。また、御遺族の心中も本当に察するにあまりあるものがございます。市としてもこれが原因について温水プール感電死事故調査委員会をつくり、九月七日、十日、十三日その原因について事実関



係の報告をいただいておりますが、現時点における過失責任がどこにあったかは司法当局の捜査段階でありますので、いましばらく御猶予いただきたいと存じております。なお、事故の直接原因であるプラグとコンセントにつきましては電気関係の所管である通産局で検討中でありますので、これらの専門的な諸調査の過程におきましては、一方的な見解を申し上げることはどうかと思いますので、しばらく時間をお借りいたしたいと思っております。

なお、市といたしましては、市営プールでなくなられたことに対し、鈴木先生の生前におけるスポーツ界に貢献された御功績に報いるため、また御遺族に対する弔意を含め香典として五十万円を差し上げました。この点も御了承をいただきたいと存じます。

過失責任に対する賠償をどのように考えるかとの御質問に対し、さきに申し上げましたとおりでございますが、過失責任の所在が現時点では専門的に司法当局並びに関係機関の捜査の過程でありますので、これらが明らかになったときにおきましては、誠心誠意これに対処するつもりでございます。また御遺族の意向も市を接点として十分な補償をとの申し出もございしますが、業者を召喚し、意向を聴取した結果、業者壮和産商社長 谷沢隆二郎も安全性を欠いていた道義責任は十分感じているといっております。客観的な判断が明確にされていない現時点では、補償ということではなく弔意ということで誠意を尽したいといっていることも申し上げておきたいと存じます。

以上、渡辺議員さんの御質問に対しまして答弁を終わります。

○ 議長 (吉田勇治郎君) 午前の会議はこれにて休憩といたします。午後は一時開会といたします。

午前十一時四十二分 休 憩

午後 一時 二分 再 開

○ 議長 (吉田勇治郎君) 午後の出席議員数二十二名、休憩前に引き続き会議を開きます。

渡辺軍治郎君の質問を継続いたします。

○ 一〇番 (渡辺軍治郎君) 先ほど質問を行いましたが、市長さんの回答は三問についてもいずれも不十分なので



再質問します。

(二六)

まず第一に、プールの寄付の問題で六月市議会では寄付は強制しない。寄付が集まらなければ追加予算を組んでやる。こういう約束しておりますが、その後の進行状況をお聞きしたんですが、それに一言の回答もなく、寄付がどのくらい集まってどのくらいの追加予算を組まなければいけないのか。そういう点について市長さんのお答えがございません。教育委員会でもよろしいんですが、お答え願います。

○ 市長 (本間 譲君) これは教育委員会のほうから細かいことを申し上げたいと思います。

○ 教育長 (高木 正君) 現在の寄付の地元の寄付の状況でございますけれども、神戸地区からは三百十三万寄付が行なわれております。それから北条地区からは四百五十万寄付が、船形地区では寄付の申し入れがあったときには十月にそれだけの寄付をするということでしたので、その時期に至ってないわけでございます。現在の状況は以上でございます。

○ 一〇番 (渡辺軍治郎君) 神戸と北条七百六十三万ですが、まだ不足がございしますが、その不足分については追加予算を組むわけですか。

○ 教育長 (高木 正君) 北条は予定どおりでございます。神戸につきましては、もう十三万前後でございますが、これは近いうちに納入するということでございます。

○ 一〇番 (渡辺軍治郎君) 私が聞きたいのは、こういう問題もありましてその後四中のプールの寄付が一戸当たり九千百円割り当てられておる。こういうことを考えますと、また予算書の中では予算編成にあたってプールや道路の舗装寄付が一般財源の不足を寄付に求めて計上しています。このように結局寄付が割り当てられて強制されるということとは、予算を組む段階でそういうことが見込まれるために、市長さんは任意の寄付要するに寄付があった場合には受け入れるというておりますが、任意の寄付があった場合には違反しないわけです。そういう点で法に違反しないということ、を市長さんは先ほどいったと思いますが、予算に多額の寄付を見込めば当然町内会等を通じて割り当てて寄付をやらな



中 座 間

ければ任意の寄付では集まらないと思うんです。だから予算編成にあたってそういう寄付を予算に盛り込むのがどうか。自治庁通達でも一般財源の不足を寄付に求めると、結局住民の負担の点について公正を欠く、合理的な形で収入をはかることができないから、この禁止の通達を出していると思うんです。そういう点で寄付を予算に盛り込めば、どうしても強制的な割り当て寄付になります。もし本当に必要な財源であるならば税で徴収しろということをしてやる。税金でやればそういう問題は解決するんですが、予算を組む場合にすでに寄付を見込むということでは、これは強制的な寄付にならざるを得ない。だから廃止しろという請願まで出ているわけです。市民のそういう要求の立場に立ってみるならば、もう予算の中に寄付を見込むというようなことはやめるべきだと思う。

封建時代に悪代官が収入や所得そういうようなことを考えないで年貢を取りたてるということをやったわけです。こういうようにに不正な寄付を割り当てて取るということは悪代官と同じようなやり方だと思うんです。だからこれは当然予算に組み込むことをやめるべきだと思いますが、この点どうですか。

○市長（本間 譲君） いろいろ寄付の問題で見解があるわけですが、いろいろ私が聞いた範囲におきましては、小中学校の關係ではPTA会費もなくなつたし、学用品も出してもらうし、幼稚園の授業料も廃止してもらつたんだからせめて一回出せばいい寄付金だからぜひ出したい。こういう父兄も相当おるように考えておるわけでございます。そういう気持の人はまことにりっぱなことだろうと思つて、そういう人の寄付はありがたくちょうだいする。

また、道路につきましても、道がよくなることは非常にいいことだから道路のために寄付をいたしたい。そうしてみんなの手ではかりたい。こういう方もおられるわけでございますが、いずれにしても、今でも金を寄付をするから早く道をやってもらいたいという二、三申し入れもあるわけでございますが、いずれにしても、私のほうでは強制的にやるという意思は毛頭最初から持つておらないわけでございます。そういうことも市民の間にもわかつておると思いますが、こういう問題が話題になつてから、出そうと思つていたけれども出さなくてもというよりな人も中にはあつて、また出してくださる人も相当数おると思います。しかしそれはそれで私はいいいと思います。とにかく道をよくするために、子供がかわ



いいため、学校のためにすすんで出していただくということは非常にありがたいわけで、非常に感謝しておるわけでございます。

○ 一番 (渡辺軍治郎君) プールの寄付、道路の寄付、そういうものは、学校建設費それから道路は補修は市に責任があるわけですよ。ですから、予算書の中ではそういうのはつきりとした市のやるべき責任においてやるものである限り、これは市が予算を組んでやるべきで寄付に求めるということはあくまでも間違いだと思ひます。

プールにしても、その地域のPTAや父兄会の財産になるのではなくて、寄付でやったとしても市の財産に組み入れられるわけです。市道にしても、市道の舗装は市の責任でやるべきで、それを予算化する以上は市が不足を寄付に求めるということではなしに、予算化するのがこれが妥当だと思ひます。それを一応寄付を予算に組めばどうしても割り当てになるのですから、地方財政法でも自治庁通達でもそういうことを禁止していると思ひます。そのところがはつきりしなければまた割り当て寄付の押しつけが起るということになるので、四十七年度の予算からはそういうことはやめてもらいたい。この点についてどうですか。

○ 市長 (本間 譲君) しかし、寄付をしてくださる人があるのを、こちから断わるのもその必要はないと思ひます。それを計上するかどうかはこれからの問題でまだそこまで考えておりません。

(「予算に組まないということですね」と呼ぶ者あり)

組まないとかいう問題でなく、そこまでいってないんです。これからですよ。

○ 一番 (渡辺軍治郎君) 従来の予算書を見ると、予算に組むかどうかどうしても寄付を取り上げなければいけなくなる。予算に組まないでやるというの、がたてまえではないんですか。地方財政法や自治庁通達はそういうことを戒めておる。どうなんですか。

○ 市長 (本間 譲君) 別にこちらから強制してそういうことはいたしません。

○ 一番 (渡辺軍治郎君) この前六月議会でも、それから今の答弁でも強制しない、強制しないといういておる



わけですが、実際には割り当てて寄付がやられてゐるんですよ。それとこの前の六月の中でも行政指導をする責任が市の側にあるということを答弁されておりますが、行政指導をしていれば、こういう割り当て寄付はやられないわけですが、事実は九千百円というように四中のブールの割り当て寄付がやられておる。そういう点で行政指導そういうことはやっていないと思うんですがね。だから結果とすれば、市長さんがいのように集まってきた寄付はみんな任意の寄付というところで受け入れることになりましたが、出さなければ村八分になるという半強制的な面があるから、表面はどうしても結局賛成であるということにはなってないんですよ。だからこれはこの前の議会でも本議会でも問題にするわけですが、市長さんは強制しないといっておるけれども、実際は強制的な割り当て寄付になっておるといふことなんで、そういう予算を予算の編成期にあたって四十七年度もそういう予算を組むのかどうか。そういうことを聞いておるんですよ。

○ 市長 (本間 譲君) なかなか何回も御返事を申し上げておるわけですが、まあそれはこれからの問題ですけれども、どうしてもやはり学校のためとか、道路のために寄付してくださるものはありがたく収入に入れて運営することは今までどおりでございますが、今それを予算に計上してどうの、こうのというまだ段階にいておりません。これからです。

○ 一〇番 (渡辺軍治郎君) これから、だから組む方向でやるのかどうかということを聞いておるわけです。

○ 市長 (本間 譲君) やっぱり寄付あると思いますからね。それはそれを除外せず、予算書は今のところ考えておりません。

○ 一〇番 (渡辺軍治郎君) 今考えていないといつても、同じ予算を組む場合に寄付の見込みはどのくらいあるのかどうか。そういう見込みで組むわけでしよう。だから市長さんが今いうのは、そういうことはこれからのことだからわからないといつても、予算を組む場合には寄付をどのぐらいの、たとえばブールの建設についてどのくらい市が予算を出せるのか、出せないとすればどのぐらい寄付に求めるのかというようにことを当然そういう時点で考えらると思うんで



すが、しかし寄付を取るということは、今いったように割り当ての強制寄付になるから、市のとにかく財産となるブールのような建設は、これはブールだけではありませんけれども、学校の建設、施設そういうものについては当然市が責任を持って予算を組むのがあたりまえだ。寄付を組むということは予算編成上間違ひではないかということです。どうなんですか。

○ 市長 (本間 譲君) 寄付を制定して予算を組んで、もし集まらないときには、それは当然追加予算でやるということまでどおりに考えております。

○ 一〇番 (渡辺軍治郎君) この問題でこれ以上押し問答してもしょうがないと思いますが、実際寄付の割り当てがやられているし、将来割り当てて寄付がやられるということが現実に起こっているので、予算を組む場合に少なくとも学校建設費や道路の舗装というよりな、そういう土木費については当然市が予算を組んでやるべきものだ。そういう立場で予算を編成してもらいたい。寄付に頼むということは間違ひしているし、やれば必ず割り当てのようになるということでこの点は行政指導、その他の面ではっきりさしてもらいたいということを希望いたしました、この問題についてはこれで終りたいと思います。

それから、水道事業の一元化について、市長は三芳水道や房州水道それから市営水道そういうものの一元化は県立移管が適当だというふうに答えていますが、私の質問したのはこの問題ともう一つ、本間市長が市営水道に、市営に反対するということですね。水道の市営に反対するということについてその理由を明らかにしてもらいたいということをお尋ねしたんですが、そのことについては一言も回答がなかったわけですが、どうなんですか。

○ 市長 (本間 譲君) 市長、これちょっとむずかしいですね。市長にあなたは尋ねておられると思います。そうすると、房州水道ということでございますが、まあそれは別としましても、房州水道を市営に移管したくないということではですね。まあこれはどうかと思いますけれども、私が選挙に立候補した当時、本間は市長になって水道会社やガス会社を高く市に売る。そういうことでやるんだということをさかんにいわれた。そんなばかなことを考えて公益事業がで



きるかと憤慨した。そういうことも市民の一部にはあったわけですよ。いずれにしても房州水道は今から約三十七年ぐ  
 らい前に当時館山北条町の石崎町長から、まだ町の財政では水道ができないから何とかやってくれ。白土を掘った穴か  
 ら水が出るからその水をもって何とかやってくれと再三再四頼まれてやった。それがなかなかたくさんの金がいってた  
 いへんなことであったわけですが、まあいろいろくふうして仕上げましたが、約二十年間欠損続きで本当にお手上げ状  
 態だったんです。水道を勧誘するには勧誘料を払ってやってもなかなかできなかった。そういうこともやってきて最近  
 急激に水道の需要が多くなり、こういうような事情であるわけでございますが、いずれにしても、私がたとえ市長をや  
 らなくても水道を市に売るということは私の良心に従わないことですが、市なんか売らずに、この前に三年か四年前に  
 館高を県立移管するについて千葉で知事と会食したときに知事のほうから、市長さん館山には当時四つの水道があつた  
 のですが、県に売ってくれないか。こういいますから、私は市には売らない。県ならばけっこうですといって二回ほど  
 知事から話があつたんですが、その後なにか水道料金が県営になると上るからというようなこともいったわけですが、  
 水道料金はむしろ房州のほうが当時は高くて県北のほうが安いぐらいだったですね。そういうこともあって何かふらふ  
 らになっちゃっています。三芳水道が非常に出す金を出さずに全部借金をもってやったから、毎年毎年返す金を出し  
 ておつて非常にめんどうでございますが、あれを県営にしてくれということをお願いしてあるんですが、今後におきまし  
 ては、私は館山も大体水道はこれで九〇多ぐらいのものでできたと思いますが、今後は大きな水源を持たなければ今後  
 の需要にはなかなか追いつかないのではなからうかと思ひます。やっぱり知事がそういうことをおっしゃったのだからこれ  
 をもっと追及して県営に移管することのほうが非常に期待を大きくできるんではないか。水需要というものは年々ふえ  
 てきますから少しぐらいのものではなかなか追いつかない状況でありますので、私は県営移管がよろしいと思ひますが、  
 しかしながら、こういうことです。水道を買収するとしても厚生省では評価委員という専門家がありまして、この水  
 道管は耐用年数がいくら過ぎておるから幾ら。そういうものによつて値段がきまるわけです。だから決してうまくやっ  
 てもうけようというようなことはとらない。公共事業で法律に規制されておつてこれは期限がくれば公共団体に移管







の需要の關係からみても一刻も猶与ならないやうなやうな時期にきているので、公營一本化に踏み切るべきだといふやうに考へて質問したわけですが、時間がありますので先に進みますが、一言水道の公營化については泉管にということがありますが、三芳水道と合せて泉管ということになれば三芳水道は七億もの起債の返済を持っています。したがってこれをすぐ泉管に移管するといふやうなことは近い時期には望めないことだ。こゝういふやうに考へますので、ただいまのやうな質問をしたわけですが、時間がありますので先に進みます。

市営プールの感電事故の問題ですが、市の調査委員会やういふところでは自主的に調査を進めているといふやうには見られないわけです。というのは、調査委員会であつたやうに一〇〇ボルトの電圧が差し違ひによつてにぎりス イッチがアースになるといふやうなことを電気関係者等の間で実験してわかつてゐるわけです。だから、さういふプラグとコンセントの關係というのは電気専門家ならばはっきりわかつてゐるはずですが、したがつて、差し込み違ひが起らないやうに構造、その他でちゃんとやるのがこれが電気専門家の立場だと思ひますが、調査委員会の報告では電気専門家の意見を聞いてゐるのかどうか、その点についてお伺ひしたいと思います。

○ 助役 (畠山 伝君) プラグ、コンセントのことにつきましては、電気関係の所管であります通産局のはうで検討いたしております。

○ 一〇番 (渡辺軍治郎君) 調べていてまだ結果が出ないといふことですか。それともほかの電気専門家にただ通産局にまかせるといふことでなくて市には電気専門家がたくさんゐる。電気機械を販売してゐる電気専門家もゐるわけだ。さういふところでさういふやうなことをやっていないかといふことです。

○ 助役 (畠山 伝君) いろいろ電気専門の關係につきましてもいろいろ伺つてはおりますが、これにつきましてはいろいろと、なお司法關係につきましても専門家の調査いたす予定になつてゐるわけでございます。

○ 一〇番 (渡辺軍治郎君) 市長さんの回答にしても、助役さんの回答にしても警察が調べてゐるからその調査を待つてから、あるいは通産省が取り調べてゐるのでその結果を待つてからといふことで調査委員会が自主的に電気専門家



をたずねて果してそういうブラグの差し違ひが起るものなのかどうなのか、その点が一番問題だと思う。そのところを追及しないでただ警察にまかすとか、通産省にまかすとか、その結果を待つておるといふ形では責任上やはり無責任ではないかというふうに感じられるわけですよ。そういう点での報告がないので、私自身としてもそういう問題について専門家に聞いて歩いて、そういうことが起こり得るはずがないといふことをいつておるわけです。だから私のほうの結論としてスポーツタイマーをつくつた要するにセイコー舎ですか、そこにこの一番の責任があるんじゃないかといふことを聞いているわけなんです。この質問に対してまだそういう調査ができてないからわからないといふことではあまり無責任ではないか。聞くところによるとこの装置を取りつけた牡和産商ですか、そういうところは見舞金を出してもいいといふようなことをいつておるといふことは過失を認めているといふふうにも考えられるわけです。そういう点についてはどうなんですか。

○ 助役 (畠山 伝君) 牡和産商の社長につきましても、事実鈴木先生おなくなりになっておりますのでたいへん申しわけない。道義責任は感ずる。できるだけの弔意を示して誠意を示したい。こういうようなこともいつております。

○ 一〇番 (渡辺軍治郎君) 調査委員会の報告で鈴木君がブラグを力で押したために差し違ひが起こったというように印象を受けたんですが、そういう点について私は鈴木君は被害者であつて自分の個人による過失ではないといふふうにみているんですが、そういう点はどうなんですか。

○ 議長 (吉田勇治郎君) 一〇番議員に申し上げます。所定の時間が参りましたので一応御了解願いたいと思います。次の通告質問者辻田 実君御登壇願います。

(九番議員辻田 実君登壇) (拍手)

○ 九番 (辻田 実君) これより五点にわたりまして御質問を申し上げます。前の二人の質問の中から二つの事項について同様な質問が出されておりますので、その面につきましては要点のみを御質問申し上げます。通告質問にかえたいと思います。通告順に御質問申し上げます。



第一項の温水プールにおけるスポーツタイマーによる感電事故について御質問をいたしたいと思います。この点につきましての事実経過につきましては、先ほど来いろいろと質疑がかわされております。そこで、私はこの項を大きく二つに分けまして、まず第一に、この温水プールの建設の経過、管理の経過について明らかにしていただきたいと思います。でございます。

昨年の十一月にこのプールが完成したわけでございますけれども、当時この施行いたしましたのは館山市開発公社であったわけでございます。その後館山市が買入れて現在に至っておりますということでございますけれども、この点について私は一つお伺いしたいわけでございます。この今度の温水プールにおきますところの自家用電気工作物の安全性につきましても、構造上の事故、欠陥というものはこの建設過程の中においてすでに仕込まれておったというんですか、つくられてあったということでございますから、この構造上の欠陥をつくった作業は開発公社とセイコー舎並びに杜和産商において行なわれた過程においてすでにその原因が発生しておるといふふうに思われるわけでございますけれども、この点を明確にしていたきたい。これらを含んで市は一切がっさい無条件において開発公社から館山市の公共施設として現在に至っておるのか。この点をまず明らかにしていただきたいと思います。

二番目に事故の原因でございますけれども、事故原因につきましてはいろいろと今調査中のようでございます。しかしながら、私はこの点につきまして二、三の点から事故の責任の真相を問わず、私はどこかにいてこの責任を負わなければならぬのではないかというふうに思われるわけでございます。

第一に、先ほど来質問の中にございますようにスポーツタイマーにおきますところのコンセントの設置でございますけれども、これは最初の時計そのものについておったのではなくて、建設の過程において加工されたわけでございます。したがって、この建設の過程においてあの交流式のコンセントをはめることによって、もし間違ったらタイム遅延のブウォッチに電流が流れるということも市の管理者は知っておったのかどうか。特に自家用電気工作物の安全規程に書かれておりますところの第十八条の責任の分限の中におきますところのその管理責任者はこのことをコンセント



を間違えた場合には、電気がタイムストップブウォッチに入るといふことを知っておったかどうか。この点についてはセイコー舎なり、当時建設を請負ったところの石井工務店これらはこれらの問題について指摘しておったのかどうか。これを明らかにしていただきたいというふうに思います。私はこの点が市の管理者におきまして不明確であつた場合には今回の事故がたまたま鈴木英明先生において事故が発生したわけでございますけれども、いずれかの時点において同じような事故があつたというふうに判断されるわけでございます。こうなつて参りますと、明らかに構造上の欠陥でございいます。この点について私は要約したいわけでございますけれども、ここで私は市長さんにはつきり伺いたいわけでございますけれども、現在の段階で事故が起きてから数十日を経っておりますけれども、どこにその責任の所在があるのかを明確にした人はおられるでしょうか。先ほど来の答弁によりますと、セイコー舎に若干責任があるやうな、仕和産商の責任者は多少の弔意金を出すやうなことをいっておる。市は調査中であるといつておる。しかしながら現実の事故そのものに対するところの責任というものが明確になつて、それからその責任が明確にされた中においていろいろ事件の真相、そういうものが究明されていくべきだと思ひます。電気会社に対するところの究明さらにはセイコー社に対するところの究明こういうものがしかれていくのではないかと思ひます。しかしながら、今の時点でもって市には責任がなさそうだ。構造上の欠陥だからメーカーだという形の中でもってさぞかし仏もうかばれないのではないか。こういうことだと思ひます。私はこれらの点、いろいろの質疑の過程、調査の経過それからからみていつて明らかにこの館山市訓令第二号の自家用電気工作物保安規程第十八条に基づくところの責任者が明らかに責任の所在を明らかにしてそれから真相の究明に入るのが筋道だと思ひますが、この点についてまず私は明らかにしていただきたいと思うのでございます。これが第一点でございいます。

第二点に私は館山市史の編さんと誤字の責任について御質問いたしたいと思ひわけでございます。

明治百年の記念と市制施行三十周年の記念事業として館山市史が編集発行されたわけでございます。たいへん喜ばしいことでもあり、また執筆にあたられた方々の御労苦に対しては感謝を申し上げたいと思ひます。しかし、個々の編集



については敬意を表するものの全体としての構成、編集、集大成に至る過程において多くの問題点を指摘、見落すことができないのでございます。この点についてどのようにお考えになるのか、御質問申し上げます。

まず第一に、発行以来小新聞等でいろいろとその問題点が指摘されております。いずれもあまり評判のよくない指摘でございます。これらについて若干の日にちが経過しておりますので、どのように考えておるかまずお伺いしたいのでございます。

二番目に、りっぱに装丁されたところの市史でございます。しかしながら、中の文章を読んで参りますと非常に誤字脱字が多いことが目立ちます。私のようにしろろとがさつと全部読んだところでは百に近いところの誤字というものがわかるわけでございます。厳密にいろいろの資料と照合していった場合にどの程度出てくるのか全く想像もつかないような状態でございます。脱字も相当ございます。明らかに脱字がはつきりわかるだけでも相当数あるわけでございますけれど、こうしたことが後世に残るところのりっぱな市史の中にあるということは、私は遺憾なことでございまして、あまりにこの誤字、脱字の多い点がはなはしいので、これらの点の扱いをどのようにして参るのか、その点についてお伺いしたいと思うのでございます。

三番目に、監修者の文にもございますように、分担執筆者が非常に少ないために努力されたということでございますけれども、そのために私は市史としての考察が非常に狭くなっており、そして非常に重要な史実が落ちていくということ。そして片寄っているということががわれるわけでございます。この点についてどうなされていくのかお伺いしたいわけでございます。館山市の文化をもっと市史に掲げてよい広範のものがあると思うのでございます。政治権力の移りかわりについても同様でございます。労働者、市民の生活についてもいろいろな変化、移りかわりこういうものはほとんど見られませんか。こうした中において若山牧水が館山市に情婦をつれてきたのどのこのという文が相当数のつておるし、さらには青木繁画伯の手紙が二通も原文がそのままのつておるといふような、こういうような中において館山市におきまして六村合併のときに豊房の村長がどんな人だったのか。また終戦当時神戸村において女性の村長が



出て、虚脱状態にあった神戸村の青年や婦人に希望を与えたことや、いろいろそういう問題が数多くあると思うわけでございます。そうしたことにつきましては一行もふれられていないのでございます。戦後女性が強くなったということはいわれておりますけれども、あの終戦の中から婦人会活動が活発になり新生活運動をおし進め、そうして婦人会館をつくり結婚の簡素化、冠婚葬祭の簡素化の推進等いろいろの活動があるわけでございます。青年団の果した役割もでございます。昭和二十一年には館山市においてはじめて労働者の祭典であるところのメーデーが繰り広げられまして、数多くの労働運動の発展もございました。

特に、私は重大なことは、日本の明治以来百年の歴史の中でもって最も大きいといわれておるところの農地改革の全貌が何も書いてないわけでございます。地主と小作の関係そうしてそれが農地改革の名のもとに近代的な農村の建設に移りかわった館山の姿は明治百年の中において最も大きな歴史的事実でございます。こうしたものについてはほとんどふれられておりません。

さらに、文化活動の中におきましては、館山病院の穂坂先生や川名先生が進めてきたところの文化活動そうして広陵大学の館山分校の開設により多くの青年たちが学び、それらの人たちが館山の第一線でもって中堅的に活躍しておるような文化活動等があるわけでございます。夏季大学の伝統こういうものが全くふれられていないわけであります。こうした点を考えて参りますときに、全体的にほとんど市史としてのせるべき重要な問題が私の知識の範囲でも相当落ちてゐるわけでございますから、市史としての骨が全くないといわざるを得ないと思うわけでございます。

こうした点について、あの市史を今後どのようにしていくのか。これから百年、二百年先に館山市史がこれであつてよいのかどうか。この点についてよく考えていただきたいと思うわけでございます。そうした点についてどのようなお考えを持っておるか。私はお伺いしたいわけでございます。

三番目に、私は水道の一元化と夏季の水対策について御質問を申し上げたいと思います。この点につきましては、先ほど来論議がございますので要点を質問いたしたいと思うわけでございます。水道法の五條一の二項におきましては、



湧水時においても必要量の水源を供給する義務が水道事業者にはあるわけでございます。この夏におきますところの館山市におきますところの水事情というのは御案内のとおりでございます。日中はほとんど水が出ないという状況でございます。

そういう中において、この水道法五条一の二に規定されてありますように、こうした状態が数年にわたって続いているわけでございますけれども、この点について今後の見通しはどうなのか。先ほど市長さんは館山の水道の普及率は九〇％進んでおるといふふうにいわれておりますけれども、昭和四十五年四月一日の水道普及率は五二・五％でございます。まだまだこれから五〇％近い人たちにも水を送っていかねばならないという状況の中におきまして、先ほどから指摘がございましたように水資源の問題をどうなさっていくのか。この点についてお伺いをいたしたいと思うわけでございます。

時間もかなり迫っておりますので、はしょって参りたいと思ひますけれども、第四番目に市道の舗装の件について御質問申し上げたいと思ひます。地方自治法におきまして第二百二十四条におきましての分担金の規定でございます。館山市におきましても分担金条例があるわけでございますけれども、この四カ年計画を進めるにあたりまして、市は地元負担金といたしまして地元より五分の一の負担金を取ることを条件にいたしまして徴収しておりますけれども、この点につきましては地方財政法第四条の五に違反するのではないかと申うわけでございます。分担金を徴収するからにはやはり館山市条例分担金条例に基づいて、その第二条の中に道路の舗装分担金を明記して適切なるところの分担金の徴収ならわかるわけでございますが、この点についての法理的な見解また徴収の方法について私は大きな誤まりがあるのではないかと思うわけでございますけれども、この点についていかにお考えになるのかお伺いしたいと思うわけでございます。

最後に、国体開催の準備状況とヨット会場の建設の見通しについてお伺いしたいと思います。館山市の国体実行委員会はこの五月に開催されました。その席上、柔剣道はもちろんのことヨットの会場についても内定をし、西岬地区



において開催されるように至っておるという報告がなされておりました。しかしながら、その後のいろいろな話や現地  
の状況を伺ってみますのになかなか困難な状況があるようでございます。

そこで、私もついせんだって現地の塩見海岸をずっと見て参りました。非常にヨットの会場としては無理があるので  
はないかというふうに考えられます。その無理をおしてどうして西岬の塩見海岸にヨット会場を内定しなければならな  
かったのか。そうして今日まで県や国に対して国体のヨット会場は西岬海岸に内定という条件のもとにいろいろの視察  
調査を進めて参られたのか。その点についてお伺いしたいと思ひます。現在地元からの反対も大きく盛り上っておりま  
す。一つ一つが納得のいくような意見でございします。私はそのときにあたりまして、これは西岬海岸にヨット会場を設  
置する段階にすでに無理があつたのではないかというふうに思ひえるわけでございしますけれども、こちらへの経過につい  
どのようにお考えになつておるのかお伺いをいたしたいわけでございします。

非常に質問時間が短かくて要旨を省略いたしましたけれども、のちほどの再質問の中において明らかにしたいと思ひ  
ますので、この点について一つ御答弁のほどをお願いいたしますして私の第一回の質問にかえたいと思ひます。

(市長本問 議員登壇)

○市長 (本問 議員) 辻田議員さんの御質問に対しましてお答えをいたしたいと存じます。

はじめに、館山市開発公社に依頼する公共施設の開発についてということでございますが、公共施設の建設事業を公  
社にお願いいたしましたして実施し、完成後市が買い受けるような場合ですが、あくまでも公共施設ということで公社でも  
内容により関係課と連絡を取り指導、監督等を依頼し、実施いたしております。

御質問の温水プール建設につきましても、市の建築課長に指導、監督、検査をお願いいたして実施したわけでありま  
すので、市で直接工事をしたのと同じ状態でございまして、欠陥あるものを買い受けるようなことはありません。

次に、温水プールにおけるスポーツタイマーによる感電事故についての御質問でございしますが、事故原因はほぼスポ  
ータイマーの構造上の過失であるように推察できますが、施設の管理者である市の責任はどのように考えるのかとお



尋ねてございますが、事故の直接原因であつたプラグとコンセントにつきましては、業者である壮和産商の社長も安全性を欠いていたとの道義的責任を認めておりますが、電気製品としては市販されているものであり、これを敷設したことにについては通産局で慎重に検討している段階でありますので、いましばらく御猶予を願いたいと思います。

次の質問でございますが、この種の事故防止についていかに対策を立てて点検をするのか所信を伺いたいとのことでございますが、施設における電気関係の総点検を指示し、二度とこのような事故の発生がないようにいたしますとともに、問題のプラグ、コンセントにつきましては、時計本体との直結方式としてプラグ、コンセントを廃止するか七P A方式として間違ひのないような方法を購ずるか、いずれにいたしましても、電気関係の専門家の意見を聞いた上、改善の必要が出れば即刻改善する所存でございます。ただ、現在は証拠保存ということで使用禁止はもちろんのこと、封印して現状維持の状態でありますことを御了承をいたさたいと思います。また使用については従来どおりとするが、使用の申し込みがあつた時点で係員が作動するようにするか、今後一〇〇%の安全性を確保するということの確認を得た上で善処して参りたいと思つております。

次に、館山市史の編さんについてでございますが、館山市史につきまして総括してお答えいたしたいと存じます。お説のとおり、明治百年記念と市制三十周年の記念事業として館山市史の編さんを計画いたしましたわけでございます。短かい期間でまとめるということはまたたいへんなことでありまして、編さんに御協力くださった方々に対して厚く感謝を申し上げる次第でございます。

御指摘のとおり、誤字誤植あるいは大事な史実としてのせなければならぬと思われるものもありますので、本年度に予定いたしております資料編を名称はいかようにするかはいずれといたしましても、内容的には補正版のような形でさらに検討、調査いたしまして、より皆さまの御趣旨にそつよう努力して参りたいと存じます。今後ともよろしく御指導、御協力をお願いいたしたいと思います。なお、誤字誤植につきましては、後日正誤表を作成して配布いたしたいと考えております。



次に、水道問題でございますが、本年の夏季における給水状況であります。市営水道におきましては、宮城、西岬及び南条の各水道について時間給水が行なわれ利用者の皆さんにたいへん御迷惑をおかけ申したいへん申しわけなく思っております。本年は水の豊富を誇る白浜水道あるいは鰯南の水道、鴨川水道においても時間給水を実施した状態でございます。房州水道についても一部断水等がありまして、いろいろ御不自由をされたことと存じまして、このような水不足のおもなる原因は何といつても例年天候的に期待されていた梅雨期が本年はからつゆに終り、八月下旬まで干天続きで雨らしい雨が降らなかつたということに加えて、避暑客の激増で水の使用量が著しくふえたということでありまして、この水不足の対策ですが、市営水道におきましては、西部水道の完成のあかつきにはすでに宮城と西岬水道は連結されておりますので、これに西部と南部の各水道を連結して給水区域内相互に過不足に応じた給水運営をしていく考えでございます。なお、以上のほか防衛施設周辺の民生安定補助事業として近い将来宮城水道の水源拡張を計画しております。目下調査中の段階でございます。これが実施されれば宮城水道をはじめ市営水道の水不足は解消する見込みでございます。さらに畑地区にきわめて有望な水源がありますので、周辺町村と共同して水道用水供給のダムをつくる計画を持っております。なお、三芳水道につきましては問題はございませんが、房州水道については昨年度井戸を掘りましたが、大体一、二〇〇トンが普通出るんですが、これが半分しか出ない面もありますし、非常に水不足を起したことでこの点は申しわけないと思いますが、来年度以降におきましては支障のないように水源拡張をすることを指導して参りたいと存ずるわけでございます。

それから、ただいま辻田さんが申し上げなかつたと思いますが、お話を聞いた点でちよつと申し上げたいと思いますが、水道法十五条ですか、水道業者の給水義務の關係の事項を規定したものでありますが、房州水道の現在の給水状況からして同条に違反するものではないとのことですが、法律上市は他の水道事業の事業経営に対し、指導、監督権は持つておりませんが、これはよりよき指導をして皆さんに御迷惑をかけないようにいたしたいと考えておるわけでございます。



もう一つ、なにか水通にはダムをつくらなければならぬというよりな辻田さんおつたそうですが、これは表流水を利用するよりなところではそうでございますが、井戸を掘つて給水するところはそういう義務はないはずでございますし、現在の西岬水道あるいは南条水道今度できる西部水道等におきましても井戸から直接消毒して出す水ですからそういうことは要求されておらないわけですから、したがつてダムをつくつて利用するというようなことは現時点ではそういう規則にはなつておらないわけでございます。

また、水源の一元化についての御質問でございましたが、これは先ほど渡辺議員さんに申し上げましたとおりでございますので御了承をいただきたいと存じます。

それから、四番目に、市道の舗装寄付金と道路政策についての御質問ですが、本年度の工事設計単価は現在のところ変更はありませんので工事費の値上りはないものと思われまします。したがつて、寄付金の増額は考えておりません。

次は、道路舗装等に伴う地元負担といたしまして地元より寄付金をいただいておりますが、これは地元の自主的な寄付でありまして、強制的に割り当て徴収する寄付金ではありませんので、地方自治法第二百二十四条に規定する分担金とはその性質を異にするものであります。したがつて分担金として取り扱うべきものではないと思ひます。それから寄付行為が地元の自主的な納入であり、強制的なものではありませんので地方財政法第四条の五に違反するものではありません。自主的な寄付行為でありますので、未納の場合でも計画のとおり実施する予定でございます。また四力年計画外の道路舗装については逐次舗装化する予定であります。

それから、四十八年国体の準備状況についてのお尋ねでございますが、市と競技団体との連携についてでございますが、館山市競技団体と館山市実行委員会とは同じ性格と同じ任務をおびておりますので、その間の距離はないと思ひますが、今度は審判講習会や選手強化を通じて一その連携を密にしていきたいと存じます。

それから、ヨット会場についての御質問ですが、去る五月二十七日の実行委員会の席上、ヨットハーバー建設の見通しが明るくなつたので心配はないだろうとお答え申し上げたと記憶いたしております。最近に一部地域において漁協役



員と地域住民の対話が欠けていたため思わぬ事態を起こしておりますが、これとても話し合いを深めていけば解決するものと信じております。

もう一つ、市民運動の盛り上げについてでございますが、国体の成功、不成功のかぎをにぎるものは市民運動であるといつてもいい過ぎではないと思います。具体的には、この十月二十六日和歌山国体秋季大会を各関係団体御協力を得て視察を行ない、その結果に基づいて全市民的な組織づくりを行ない市民憲章を土台として具体的実践項目を設けて進展させたい構想を練っております。県でも近々県民運動推進会議をおこし、推進委員を委嘱して運動を展開する予定でありますので、市民運動もこれと並行して運動を推進して参りたいと存じております。

以上、申し上げまして辻田議員さんの御質問に対する回答いたします。

○議長 (吉田勇治郎君) 辻田議員の再質問を保留し、暫時休憩いたします。

午後二時 十五分 休 憩

午後二時三十七分 再 開

○議長 (吉田勇治郎君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

辻田議員の質問を続行いたします。

○九番 (辻田 実君) 項目別に御質問いたしたいと思ひます。第一点温水プールにおける感電事故について、この項については一点だけ御質問申し上げたいと思ひます。この事故原因につきまして構造上の問題といたしまして、メーカー並びに販売製品としての通産局の責任があるという点につきましては了解いたしましたけれども、そこでもつて一点だけ施設の管理者であるところの市の責任はいかように考えておるか。この点についてのみこの項についてお伺ひたいと思ひます。

○市長 (本間 譲君) 市の責任についてということですか。これにつきましては先ほども申し上げましたが、いろいろの方面で調査をされておりますので、今はつまり申し上げる段階でないと思ひますので御了承願ひたいと思ひます。



○ 九番 (辻田 実君) この点につきましては、くどくなりますから省略したいと思いますが、確認いたしておきたいと思います。司法権等の調査が進んだ段階において市の責任については明らかにしたいということで、現段階ではないということでもつて、いずれその段階が出てくればその段階でもつて明らかにしたいということであるんですか。そこらへんについて。

○ 市長 (本間 譲君) もちろんそういうことでございます。いずれにいたしましても、私はこの問題は市長としては市民の方々が納得する根拠が明らかになれば、一日も早く市でやるべきものは御遺族に対してもあたたかい気持でできるだけの、市の場合にはですね、これを解決して御遺族の方々をおなぐさめをいたしたい。また亡くなられた先生に對しても礼を尽したい。こういうふうに考えております。

○ 九番 (辻田 実君) 一項につきましては、現段階ではそういう方針で市が進まれるようでございますので、今こころでもつて質問を繰り返しても討論の繰り返しになるので、願わくば早い期間にひとつそういう責任の所在、分限そういうものを明らかにしていただきたいことを要望いたしました。二項に移りたいと思います。

市史の問題につきましては、補正版というものを編集するというお答えがございましたので、私はその点についてひとつ了承いたしたい。非常にそういうことでやっていただけのことなことでというふうに考えております。

そこでもつて、関係機関並びにそういうものと相談をして討議をしながら補正版の形ということでございますけれども、これについて私は一点だけ伺いたいわけでございますけれども、館山市史の中に二十何人の編集委員と十一名の執筆者によつてこの本はつくり上げたということをいつておりますが、二年以上のうちに編集委員会は一回も開かなかつたということを開いております。裏の中に書いてあつた編集委員二十数名の中に相当部分の人に聞いたんだけれども、私は編集委員会に立ち会つたことはない。こういうことも聞いておりますけれども、そういう面についてこれからの補正版を書くにあつてどのように考えておるのか。そういう人たちの総合的な人たちの意見を聞くのか、どういうスタッフでもつて補正版の取り組みをするのか。これはまだ急なことでもつて見通しがないかもしれません、見通



しがついておればその点について、見通しがついておらなければ予算の段階、その段階等について討論したいと思うわけでございますが、編集委員会の問題と今後の見通しについてわかる範囲においてお答えできたらお願いしたいというふうに考えております。

○秘書課長（太田博雄君） 市史につきまして、このたび辻田議員さん質問の要旨いただいたわけでございます。その以前におきまして新聞等によりましていろいろお電話等もございまして承知したわけでございます。なにぶんいたしまして、先ほど市長から答弁いたしましたとおり、事後策といったしましては、本年度予算化してございます資料編を先ほど市長が申しましたとおり補正版にするとか、また名称につきましてはいずれにいたしまして、どうしても入れなくてはならないというものにつきましては、今後刊行する予定であります。

それにつきまして、おととい編集者であります森教授と東海大学の講師の菊地先生をお呼びいたしましたして、執筆者全員集めまして事後策についていろいろきのう検討したわけであります。早急のこととございましたので、あらためてまた編集委員の方々を御足労わずらわしまして、再度検討いたしまして皆さまの御趣旨にそうよう努力いたしたいつもりでございます。以上でございます。

○九番（辻田実君） よりりつばな補正版ができて、市史が後世に恥ずかしいものになることを期待いたしまして、またその時点で論議をいたしたいと思っております。

続きまして、水道問題について二点ほど伺いたいと思います。まず第一点は、今年は異常な渇水状況に見舞われたということが水の出なかつた原因であつて自然現象のやむを得ない結果だ。こういうような答弁があつたわけでございますけれども、確かに今年は異常渇水いたしましたけれども、夏の期間中おおむね館山の市街地等におきましては水事情がわるい。ほとんど出ない。朝晩多少出るといふことで朝晩の水をおけやかめに取つてそれをつないでやつておるといふのが実情であると思ひます。したがひまして、その面について水道法第十五条の一項にございますように、今のままで参りますと、やはり来年も再来年もこの夏季におきますところの渇水状態というのが出てくるんじゃないか



と思われなわけでございます。そこでもつて、私はそれに対するところの方法として一元化ということも指摘したわけでございますけれども、この湯水時を切りぬけるために場合によつては市長さん自身が市長であり、また房州水道の役員でもあるので非常にやりづらいいと思いますけれども、房州水道を事業を充実させていただくように、場合によつては融資のあつせん等利子補給等を実施してでもやはりこの水事情をとにかく会社がいい、わるいの問題ではなくて、市民は水が飲めるか、飲めないかの問題でございますから、その点については私心を捨てて市長の立場でいろんなめんつ等にこだわらずに水道企業の育成を民間だつて市だつてかまわないと思います。とにかく抜本的にやつて水が出るように、これは湯水時ですけれどもやる方法はないのか。そういうことは考えておるのか。おらないか。これが一点。

それから二番目に、やはり水道の申し込みをしてもスムーズにいつてないわけです。水事情がわるいのもつとちよつと遠慮してもらいたいというようなことがぼつぼつ出ているようでございます。これは水道法の第十五条の第一項に基づきまして新規の申し込みは必ず受け付けなければならぬんだということが出ております。ならないんだということと違反ということはどう関連するかわからないけれども、違反とか、違反でないということが出ております。ならないんだというのでは五二％の普及率でございますから、ひとつこの点についていつても申し込めるようにしていただきたい。特に館山市では井戸水の水質検査しているわけでございます。水質検査の結果が中間発表されておりますけれども、かなり不適といふものが出ております。一方じや井戸の水はもう使えませんか。不適と指摘しておいて、それじや水道を申し込みますとすれば水がないので申し込んでも全体が困るからもう少し待つてくれないうか。これじや水行政としてはぐあいがあるんじゃないかと思ひまして、いつても引かなければならないという水道法第十五条のこの面については見通しはどうなのか。この点についてはつきり伺つておきたいと思ひます。だめなものだめとしてまあ二、三年待つてもらいたいとか、水道を県に移管したら解消するとかそういうこともあると思ひますから、そこらの目安を出るとか、出そうだといふことばのやりとりだけでは困るのは市民でございますので、この点について以上二点について御質問いたしますので御答弁お願いいたします。



○ 市長 (本間 讓君)

市長としても市民の円滑な水源確保は大いに指導しなければならぬわけでございまして、水が出ないと夜も眠られないような私も感慨を持つておりましていろいろやつておるんですが、先ほども申し上げましたように本年は井戸を掘つてこれが一、二〇〇トンぐらゐは普通出るんです。ところがどうしたか六〇〇トンぐらゐしか出なかつた面もありますし、また湯水の関係で迷惑をかけた点については本当に私は夜も眠れないくらいに責任を感じておりまして、今後におきましてそういうことのないように指導して参りたいと考えておるわけでございますが、今のたいへん御親切な融資問題でございするけれども、この私設水道に対してはいろいろやつてみたこともございましたが、つまり全国では今では二つぐらゐです。ですから水道事業というものはそういう条項に入つてないですね。水道事業というものは公営がたてまえのわけでして、そういう条項が中小企業の関係にしてもいろんな面にしても融資のあれが入つてない。それから普通に借りても期間が短かい。三年か五年ということでもありますし、それを別にしても市民に御迷惑をかけることは本當にしのびないことで今後も、来年度においても遺憾のないようにいたしたいと思つておるんですが、ここで来年度あたりだいじようぶかといわれたらだいじようぶだとも申し上げられませんが、できるだけの方法を講じて少しでも市民に御迷惑かけないように対処いたしたい。私は辻田さんにいわれるまでもなく、自分として本當に夏になると気がもめてしょうがない。こういう責任を持つておりますから、それによりまして来年度のいろいろの適切な指導をして参りたいと思ひますから御了承願ひたいと思ひます。

○ 九番 (辻田 実君)

私が生まれたときから水道事業にたずさわつておるベテランの市長さんが、夜も眠られないほど考へておられることでございますので、私どもといたしましても協力できるものはして、とにかくいろいろそういうものを度外視して何とか水を確保しなければならぬというふうに思つておりますので、ひとつ今後ともその気持かわらずに英断をくだして水事業の確保をお願いしたいと思ひます。

四番目の点に移りたいと思ひます。ここで二点ほど御質問いたしたいと思ひます。第一点は、法的になつて申しわけございせんけれども、市長さんは強制ではないと、あくまでも寄付だということをおつしやられておりました。これ



私は私は教育費の問題等とからんで非常に苦しんでおる結果ではないかと思われまゝ。私は道路の問題につきましては公共性を持つておりますし、また自分の利益というものにもかなりつながらるものがありますので、これは地方自治法の二百二十四条の分担金として徴収することも可能じゃないか。分担金として五分の一のものを舗装については地元負担金をいたたく。こういうことになれば今の館山市の財政事情からいつてもやむを得ないではないか。したがつて館山市の分担金条例の改正等をみながらむしろ地元負担金が公正に行なわれるという面に私は活路を見出したほうが適切ではないかというふうに考えておるわけでございます。したがしまして、その点についてどう考えるのかということです。

先ほどの答弁で市長は強制でない。自主的だといわれておりましたけれども、そこで、第二点目の質問に移るわけでございませうけれども、今、私のほうの部落でも約五百万近くの寄付金を地元負担金が想定される。これは二カ年にわたるわけでございませうけれども、そのために一世帯当たり平均八千円、特に自分の家の前が舗装される人については二万円程度の寄付金を集めないと五百万にならないわけです。そういうことでもつて非常に苦勞して私のほうの部落の総会でもおおもめにもめてどうなるんだ。全くその状態を市長さんはじめ担当の課の人に見てもらいたいぐらい本当に切実なことで区長さんも役員やめたい。こういうような状況があつたわけです。しかし、やむを得ないから何とか協力しようではないかというのをいつたんですが、しかし、合点いかない人がかなりいるようでございます。

そこでもつて、私はそういう状況においてただいまの市長さんの答弁にありますように強制ではありません。あくまでも自主的な寄付だということ、そういうことでもつて私の御答弁でもつて全く間違ひなければ、私はそのような旨をそれらの地元の部落の人さらには地域の人たちからいろいろ出ておる苦情に対して強制的でなく自主的でつこうです。こういうことでもつてお答えしたいというふうに考えておりますけれども、その場合に本年度の計画といたしまして四三・九キロメートルの舗装が予算上計上されていきます。その四三・九キロメートルの舗装は滞りなく行なわれるのかどうか、はつきりと御答弁いただきたいと思ひます。以上、二点について御質問申し上げる次第でございます。

○市長（本間 譲君） ただいま辻田議員さんから分担金の問題についてのいろいろお話しがございませうが、この間



題につきましてはよく検討して参りたいと考えます。

それから、道路舗装、改修についてはとにかく予定どおり実行いたします。以上です。

○ 九番 (辻田 実君)

こちらへんは何か市民の間でもつて非常にデリケートな問題でございますので、大体意を解せるのでございますけれども、分担金条例についてはさきについて討議していただくということでございまして、私はむしろ道路の舗装化問題については分担金条例に入れたほうがいいんではないか。税金の中でまかなえるならば一番いいのでありますが、道路ぐらいいは分担金でもという気がするぐらいでございます。こんなことをいいますとおこられてしまいかもしませんが、私は財政事情等通じて分担金でいいと思いますけれども、この四ヶ年計画でもつて計画されたところの舗装計画すでに町内会に対して内示してございまするけれども、その点についてはしつこいようでございますけれども、分担金条例ができればその時点から適用ということもあり得ると思いますけれども、分担金条例ができない間におきましては、先ほどの市長さんのおつしやられましたように予定どおりやつていくということでもつて理解してよろしゅうございますでしうか。よろしければその点。

○ 市長 (本間 譲君) よろしゅうございます。

○ 九番 (辻田 実君)

そういうことでやつていただければ、私のほうも本当に安心できたわけでございまして、ひとつ滞りなくつばな道路がでますようお願いいたしたいと思ひます。

五番目の、最後の質問に入りたいと思うわけでございます。柔道、剣道については私は一〇〇％大成功といつても過言ではないというふうに思われます。しかしながら、どうしてもヨットの問題についてはもう心配でもつて、市長さんさつきは夜も眠られないということでもございましたけれども、私は眠れないほどじゃございませんが、非常に日夜心配しているわけでございまするけれども、この中でもつて私はもう過程についてはとやかく申しませんけれども、話し合いが今進められており話し合えれば西岬の塩見地区については話し合いて何とか見通しが立てそうだという御答弁だつたわけです。私が十七日の晩に塩見地区の人たち約三十人ほどの人たちのいろいろお話を聞いたところによりますると、



とてもじゃない。あの状態では成田空港の二の舞いでも繰り返すような状態でもつて、もう市が話し合えれば何とかするのはないかということをつけていながらも、最後のどたんばにいつて私は強制収容等やらなければ道路の確保とか特定地域の土地の買収が不可能だとか、こういう問題が出てくるのではないか。そうしてある程度の不祥事を巻き起こさないでヨットハーバーは西岬地区は最終的にできなくなるのではないか。そういうような状況を目の前にして参りました。私はその点について非常にもうタイムリミットに入つておるわけでございますので、心配されておるわけでございしますけれども、その点については、もう一度しつこいようでございますが、確認したいわけでございますけれども、話し合えばこの数日のうちに国体開催できるような見通しを確信を持つておられるのかどうか。確信を持つておられるということであつたら何もいうことはございませんけれども、その点についてひとつお答えをいただきたいというふうに考えます。

○ 市長（本間 譲君） ヨットハーバーの建設位置につきましては、今までは相当順調に進捗しておつてこのぶんならいけるかという結果的にはなつておつたんですが、それにはいろいろ補償問題とか、いろいろの問題で私も中に入つて県にがまんするところはしてもらうということをやつたんですが、どうも最近いろいろの情勢を聞いてみますと、漁業組合の役員の方々と漁協組合以外の方々との話し合いが最近持たれたような面があるわけです。私のほうはずいぶん前からやつておつたんですが、下のほうにいきわたつていなかつたようで感情問題もあつてごたごたしておることは一日、二日のことは伺つておるんですが、私は市としてはできることが一番いいことです。ですからあらゆることを心配して参つたんですが、どうしてもできないということになればよそでも運動しておりますから、早くいけないはいけないといつて、やるべきことをやつてそれでいけないということになればそれ以上のごとは市長としてもできません。よそにゆずるほかないと思います。それは土地の方々のお考えでなにも絶対的に館山市におかなければならないということはないと思います。県でやることです。館山市の事業なら館山市でやらなければならぬ。県の事業ですから強烈な反対してまで、なにも成田空港の二の舞いをやるなんていうことであれば、そういう反対があるところは私はやら



ないほうがいいと思います。しかしそれは土地の方々の見解にまつことでございますから、これ以上やつてもどうしてもいけないというならば私はよそで運動していることから、よそのいいところにやつてもらつても決して私どもの手落ちではないと私はそう考えておりまして、今のところはできるだろうということを確認を持つて申し上げられない段階ですが、了解して御了承してもらうことを念願しておるだけでございます。

○ 九番 (辻田 実君) 今の市長の答弁を聞きますと、とうてい不可能ではないかというよりな気がいたすわけでございます。当日の席上、年寄りの七十過ぎた方が三、四人いましたが、私はあの海がヨットハーバーによつて海水浴場としてやめられる場合には成田空港の学生ではないけれども、私は死んでも反対しますというふうなこともいつておりまして、本当に涙をこぼしておりました。今の状況ではそれらを説得する方法はないというふうに見えたわけでございます。もう本当にそういう状況でございますから、本当にはたから見れば超人的な事態が起きて自殺が起これるか、何とかそういう不祥事に発展することを防ぎ得ない余地ができるという状況でございますので、これらについて私は市長自身が非常に希望を持つておられるようでございますので、ひとつそれでもつていただきたいというふうに思います。その点についてはこれからの問題でございますので、ここでもつてどうかいつてもしようがありませんので、そういう状況にあるというをよく聞いてもらつてそれらについて話し合いをもつてスムーズにできるようお願いをいたしたい。この点について要望いたしておきたいと思ひます。

それから、最後になりまするけれども、国体実行委員会というのは五月二十七日に第一回開催されて以来ちつとも開催されていらないわけです。先ほど質問したわけでございますけれども、市史編集委員もあの監修のことばをみると二十数人の編集委員と十一人の執筆者によつて去々ということが書いてあつたわけです。それにもかかわらず、編集委員会が持たれてなくて編集委員会の了解のないままに市史が発行されちやう。こういうこと本当に驚くべきことではないか。それが館山市史について行なわれておる。今度の国体実行委員会の中におきましても約何百人という方が実行委員に委嘱されておるけども、それらの方については何らの要請がない。私自身実行委員になつておりまするけども、ヨットの問



題について苦勞しておるとか、何をやつてもらいたいとか協力態勢について何ともない。私はこういう機関を通じて多くの人たちが力を寄せ合つてやつていくという形をこの国体の中においてもやつていただきたい。国体の実行委員会だけでなく、ほかの委員会についてもやつていただきたいというふうに思うわけでございます。今後国体の実行委員会においてそういう形でやつていかれるのかどうか、全く委員としても私たちはつんぼさじきということでございますけれども、これについて簡単に御答弁いただいて終りたいと思います。

○ 助役 (畠山 伝君) 国体関係につきましては、たいへん御協力いただいておりますわけでございますけれども、この十月にいよいよ和歌山国体が秋季の大会が開催されるわけでございますが、来年度つまり開催の前年度をむかえましたのでいよいよこの実行委員会を大きく活動していただかなければならない時期が参つた。かように考えておるわけでございます。このヨットハーバーのことにつきましてもたいへん御心配かけて私ども申しわけないと思つておりますが、今後とも実行委員会の方々と御協力、御指導いただきながら、ひとつ話し合いをもつて円満にこれができますようにお願いいたし、懸命に努力いたすつもりでございますのでよろしくお願いいたします。

○ 議長 (吉田勇治郎君) 次 八番石井武敏君御登壇願います。

(八番議員石井武敏君登壇) (拍手)

○ 八番 (石井武敏君) 通告順に従つて質問いたします。

災害対策基本法第四十二条の規定に基づいて館山市にも地域防災計画が制定され、その目的の中に住民の生命、身体及び財産を災害から保護する去々と定められております。

過日の台風二十五号はこれまで災害には恵まれ過ぎていた房総半島の各地に甚大な被害をもたらした。すなわち県下においては死者五十五人、負傷者十九人、家屋全半壊百二十三戸、床上床下浸水六千五百四十九戸、がけくずれ等々の被害は五十六億六千万に達したといわれております。館山市内においては幸いに各地域に比較するとそのつめあとは輕かつたのであるが、野島崎沖九〇キロに達した風速二五メートルの猛威は人々の震慄を寒からしめたのである。台風の



過ぎ去つた現在、館山市における防災計画が果して完璧のものであるかどうか再検討する必要があると思います。

まず第一に、例年より台風が多いという予報は早くから出されていた。また七日の夜の時報は房総半島を抱き込みながら三陸沖に通過するといふ知らせがあつたが、これらに対して当局はいかなる処置を取つたのか。お聞きしたいと思ひます。聞くところによれば、ふだんとかわらない当直が二人いただけのことであるが、万一台風の状況により予想外の事故が発生した場合に適切な処置が取れないと考えますかどうか。台風災害の性質上建設、土木、交通消防関係は事故発生と同時にその解決に働けるよう待機すべきであると思ひます。

また、安房高臺の雨水排水についてはパトロールを行なつたさうであるが、事故発生前にその他の危険区域についてはパトロールすることは当然であると思ひますが、この点はどうか。今回の台風災害は免れたが市内において危険と思われる区域が数カ所あります。このように危険と思われる地帯はふだんからチェックをし、しかるべく対策を取るべきであると思ひます。災いは忘れた頃にやつてくるといふ、備えあれば憂いなしとも古来からいわれております。館山市については恵まれ過ぎてその備えを忘れてゐる傾向がたぶんにあるのではないのでしょうか。これらの問題に取り組む今後の姿勢をお聞かせ願ひたいと思ひます。

次に、地震対策について質問したいと思ひます。過日東大の名誉教授の河角博士の講演が市民センターにおいて行なわれましたが、同博士の大地震六十九年周期説によれば、関東大震災とほぼ同規模の地震の発生が千葉県特に南部にその発生の危険性があるといふことであるが、この点の確率性について当局はいかなる見解を持つてゐるのか、お聞かせ願ひたいと思ひます。

現在、千葉県において地震対策総合計画の一環として学者グループで編成されている環境科学研究会に調査を依頼したといふことであるが、館山地域に関して具体的にいかなる調査がなされたか。そしてそれらは結論的にどのように方向づけされたか。この点はいかがでありますでしょうか。

また、館山市防災会議で定められてゐる避難計画についてであります、これらについては本計画後に避難場所とし



て適當と思われる當造物等が建築されているところもあり、再検討の必要ありと考えます。また地震によらず災害発生の際には、最も留意すべきは交通、通信の途絶した場合においては流原飛語がなれやすく人心に不安を与えるのであります。その場合、広報車、あらゆる放送施設、ポスター、チラシ等を利用して迅速に行ない、人心の安定をはからなければならぬ。この際広報担当者は正確な情報を収集しなければならぬが、その際には無線機は大きな働きをなすものであると思います。現在使用している無線機は中短波のものでありますが、より完璧を期するために長波の無線機を備える必要があるのではないかと考えます。そしてその情報キャッチ網は日常から整備され、訓練されていなければならないと思いますが、この点はどのように考えておられるか。お聞きしたいと思います。

以上が災害対策についての質問であります。災害対策基本法の規定に基づいた館山市防災会議がいきた組織であることを望むものであります。

次に、学校給食について質問します。学校給食の食事内容は栄養的かつ衛生的であることはもとより児童または生徒に対し、魅力的となるように献立を作成し、また調理についてはたえず改善をはかるようにつとめることが肝要であると思われまします。また一般家庭における食事の不足する栄養素を補なうことをその目的とするものであると考えます。現在学校給食センターは、館山市内の学校及び富浦、三芳方面を含め一万食の給食配送を行なっておりますが、これらの献立についてはさまざまな要望が父兄から出ております。

その一つには、フレンドベーカーリーで製造される給食用のパンがおいしくない。市販されているパンに比較するとはるかに味が落ちてまずいという声であります。特に七月に配送されたパンはふだんの月よりまずかつたという声があつたが、その原因はたぶん原料のしつけによるものと推定されます。当局としてどのようにこれを考え、今後改善にのぞんでいくのか、心がまえをお聞きしたいと思います。

また、現在製造されているパンの原料配分は小麦粉一〇〇に対してイースト二・五、イーストフードが〇・二、食塩二、ショートニングが五、砂糖五、脱脂粉乳三、リジン〇・二であります。この配分は文部省で定められた基準に基づいた



ものでありますが、これらの配分を児童の嗜好に基づいて改善できないものかどうか、お聞きしたいと思います。調査によれば、市販されているパンには砂糖の含有量が二〇％といわれております。給食外でこれらのパンを常食している児童にとつて給食パンがまずいというのは当然ではあるまいか。このように考えますが、この砂糖の量を二〇％は無理であつても一〇％に増加する方法はないだろうか。この点いかが考えますか。また過去においては目先のかわつたパンを製造したことがあります、それらの結果はどうであるか。お聞きしたいと思います。すなわち去年の九月にはロールパンまたはあげパンが今年に入つて二回、レーズンパンは一カ月に一回、ニコドリパンは一カ月一回等が児童に食されてゐる。これは、菓子パンを好む現在の食生活にマツチした方法であると思ひます。このように味に変化のない食パンばかりでなく、バラエティに富んだパンをもつと多く取り入れることは可能であると思ひますがどうでしょう。またパン食のみではなく、米食をも取り入れてもらいたいという希望を聞くのでございますが、これらの要望を給食献立に加味することは可能であるか。お聞きしたいと思います。

いずれにせよ、当局は学校給食と委託加工契約を結んだ学校給食パン協同組合に対して適切な指導を行ない、児童から喜ばれるパンの製造をめざしていただきたい。かように思う次第であります。以上をもちまして私の質問を終ります。

(市長本問 議員登壇)

○ 市長 (本問 議員) 石井議員さんの御質問に対しましてお答え申し上げますが、私は市民の災害防止につきましては、常に考えておるわけでございますが、これは防災基本法に基づいて防災会議をつくり、防災計画も立ててあるわけでございますが、今から三年くらい前だと思ひましたが、その会議のときやなんかの関係で電信電話が途絶した場合には、無線機によるほかはないということと三年前に六機ですが買ひまして、市役所、消防署、警察、医療センター、航空隊いろいろ配置してその演習もしておるわけでございますが、いずれにしても市民を災害から守るということは一番私は大事じやないかと考えておるわけでございます。



この間、二十五号台風のときも職員を待機をさせておつたんですが、大事に至らず終つたわけでございますが、いつでも職員はそういう場合には自宅待機で電話一本かかれればすぐこられるように職員間になつておりますが、また防災会議関係者に対しても同様にいろいろお願いしておるわけでございますが、この災害の避難場所については大体、中小学校、高等学校あるいは海岸寮そういうものを指定して万一の場合に避難することにしておるわけでございますが、危険箇所については消防関係は消防、土木関係は土木、交通関係は交通関係でチェックして常に万全を期しております。大きな危険箇所としては、那古山のあのがけの付近あるいは富崎の駅付近が非常に心配されるわけであります、そういうものを危険箇所として対処いたしておるわけでございます。

それから、地震に対してどういう考えかということでございますが、私はちょうど二十二、三頃だと思ひますが、あの地震にあいまして実際に体験した一人でありまして、よくその当時のことはわかつておるわけでございまして、そのことについては前からいろいろ相談してあります。地震が起きたらどういう処置をするかということを実際に訓練する必要があるということで今年の七月十五日旧北条小学校跡におきまして、演習を行なつて市民の非常なお骨折りをお願いしたわけでございまして、とにかくあれによりまして市民の方々も相当認識をされたことと考えております。また近くはこの地震に遭遇した方々のお集まりを願つてそれらの体験談を求めてそれを市民に知らしていくことも一つの方法ではないかと考えますが、交通課で担当しておりますので、御指示の内容につきまして十分検討させていつ地震が起きてても災害を最小限度にとどめたいと考えておる次第でございます。

それから、地震につきましては、せんだつて東大名誉教授の河角先生をわずらわしてこの九日ですか、地震についての講演会を行なつて市民の地震に対する認識を深めて参つておるわけでありますが、これからも一そう研究しまして災害、地震に対して市民に少しでも被害が少なくなるようにつとめて参りたいと考えておる次第でございます。

それから、給食のパンの配分とかいろいろなことでございますが、お説のようにいろいろ御意見もあるわけでございしますが、現時点におきましては文部省の指定する配分によりましてフレンドベーカリーに委託してやつておるんですが、



石井議員さんのおつしやるような人もいますけれども、あれでもいいという人もおりますし、なかなか皆さんに合致したというところは容易じやないと思いますけれども、これはそういう専門的人にも依頼して、やはり生徒がおいしく栄養のあるものを食べさせるように、これを機会に検討して参りたいと考えておる次第でございます。あまり適切な答弁にならないと思います。詳しいことは教育長、いずれにしてもおつしやることについては十分検討しまして、できるだけ意にそうようにいたすように、その係もおりますから相談したいと思えますから、よろしくどうぞ。

○ 八番 (石井武敏君) 災害に対しては危険と思われる区域をきめ、那古地区の小原のトンネルは過去において豪雨のために土砂がくずれてトンネルの出入り口がふさがれて人がとじこめられたということがありました。また船形港付近は排水路の不備のために雨水のはんらんのおそれがあります。また船形駅周辺の数ヘクタールの田んぼの水が幅三〇センチ高さ四五センチの狭い排水路に流れ込んでおる。そういうところがあり、住民の不安は非常に強いものがあります。また富崎地区で発生した土砂流出二、三についてはがけくずれ対策、それらを無視した結果があつたのではないかこのように考えられますが、この点についてお答え願いたいと思います。

○ 交通課長 (山口 一君) お答え申し上げます。ただいま御指摘の危険箇所でございますが、先ほど市長答弁の中にございましたように、私どものほうとしましては、この台風対策につきましては、危険箇所としては那古山付近あるいは富崎周辺を一応危険箇所として考えておつたわけでございますが、ただいまの御指摘の地点につきましても、小原トンネルにつきましてはすでに落石防止の防護さくでございしますが、それをつけてございしますし、船形港近辺につきましても現在担当課のほうで検討しておるという状況でございます。この点につきましては、長期的な抜本的な対策が必要と存じますので、今後関係課と協議いたしまして前向きな姿勢で検討して参りたいと存じます。以上でございます。

○ 八番 (石井武敏君) 危険区域についてはまだ十分な対策とは思われないのであります。すなわち市としては常日頃から災害防止の説明会を開くなりあるいは災害に無関心な住民に十分なる啓蒙を行なつて、それらに積極的に解決していく姿勢があつてこそ災害を未然に防ぐことができる。このように思うものであります。それらの対策についてまだ



不十分であることは残念であります。今後十分なる検討をしていただきたいと思ひます。

次に、参考に質問しますが、先日の台風の当日台風が通過して災害の危険なしと判断したのは何時の時点であつたかお聞きしたいと思ひます。いわゆるバトロール実施を中止して待機した者が解散をして帰途についたという時点ですが、何時であつたか。その点についてお答え願ひます。

○ 交通課長 (山口 一君) お答えいたします。過日の台風二十五号の際でございますが、これも先ほど市長の答弁の中にございましたように、私も防災担当職員は一応登庁いたしましたして待機しておつたわけでございますが、私どもが待機を解除いたしましたのは午前二時頃だつたと私記憶しております。なお、その後の警戒につきましては、消防活動としてお願いして帰宅した次第でございます。以上でございます。

○ 八番 (石井武敏君) 館山測候所に問い合わせたところ、六日の十七時三十分到大雨強風波浪注意報が出ております。そうして最も危険視されていたのが七日の二十時三十分であり、暴風雨波浪洪水注意報が出ております。それから八日の午前五時三十分はまだ危険感はおさまらない。そして風雨波浪洪水注意報が出ております。台風の実感が去り洪水注意報だけにしほられたのは十時三十分であつたということであります。私の申し上げたい点は、それらの測候所の判断と当局の判断に非常に食い違いがある。これでは無防備同然ではないかということであります。すなわち災害時においては建設、土木、交通、消防関係は住民の不安を少しでも解消するといふために何らかの方法を講ずるべきである。このように考えます。

次に、質問しますが地震対策についてであります。環境科学研究会は館山地区について具体的にいかなる調査がなされたか。その点についてお答え願ひたいと思ひます。

○ 交通課長 (山口 一君) 千葉県におきまして現在いろいろといわれております地震対策につきましては必要上、昭和四十五年十月に環境科学研究会、これは学者グループでございますが、そこに地震対策基礎調査の調査委託をしたわけであります。それに基づきまして、本年の七月に千葉県防災会議の席上におきまして、その第一次分の中間報告が



なされております。この調査におきます種々の研究グループによりますところの調査でございますが、本市につきましてもおそらくは大正十二年の関東震災の記録に基づきましての災害個所あるいは災害状態そのような点を参考といたしましたので実情調査を現地におきます実情調査を実施しております。さらに最近になりましたこれはきわめて学術的な問題で私ども専門外でよくわかりませんが、磁気ドラマによりますところの地質調査あるいは家屋の震度調査というものを市内四カ所において実施しております。

この結果につきましては、まだ具体的な計画はなされておりません。これらの調査に基づきましての結論といたしましては、来年度早々に具体的な事項が研究会より千葉県防災会議に対して報告がなされるという予定になつておりますと聞きます。これらは災害に対する市民の関心度の高さを示すものであるとこのように考えます。故に防災計画は単に計画があるというだけではなくて、それらの計画に基づいて住民がどのように行動したらよいか。十分なPRが必要であるとこのように考えます。これらのPR活動は今後力強く推進さるべきであると思いますが、その計画があればお聞かせ願いたいと思います。

○ 交通課長 (山口 一君) お答え申し上げます。防災対策につきましては、ただいまお話しのとおりでございます。市といたしましても、市民に対しての広報活動を中心に今後防災対策を進めて参りたいとかように考えております。なお、具体的な問題につきましてはただいままでに市の広報あるいは回覧板等を通じて、災害の状況あるいは災害に際しての心がまえ、その他につきまして広報しておる次第でございます。なお、今後におきましても市民に対しての広報を中心に考えて参りたい。このように思う次第でございます。

○ 八番 (石井武敏君) 防災に關しては住民の生命、身体あるいは財産を災害から保護するということのために万全を期するように市の積極的な姿勢を要望いたします。

次に、学校給食についてでありますが、まず給食センターにおいてカロリーの計算とかそれらは十分児童、生徒の発



育を考えたものである。これは理解できますが、栄養価がいくら高くても食べなければ価値がない。アンケートの結果によりますと、非常に家に持つて帰る生徒が多い。このような結果が出ております。すなわち、なぜかといいますと、砂糖の含有量が絶対的に低いということであります。文部省の規定は最低基準でございますから、それ以上の含有量を加味するということはできるはずであります。この点いかが考えますか。お答え願います。

○ 教育長 (高木 正君) 食べることにつきましましては、学校側で指導もしておるわけでございます。パンにつきましては、御指摘のとおり形をかえたり、味にプラスチックアルファーしたりして子供たちの好みに合うようにくふうしておるつもりでございます。ただ、砂糖をよけいませまして味にくせをつけていきますと、その当時は、当座は口あたりがよく食べらわけてありますが、すぐあきがきてしまうことは、かつて牛乳給食時代において非常に残すということで砂糖を加味したりあるいはコーヒー牛乳にしたら前よりよく残つて困つたことがあります。結局、現在のフレンドベーカリーで製造するパンは県の抜き取り検査でも上位にランクされておりますので、一部の子供たちの好みに合わないという面もありますので、一面において指導しながら、一面においてはフレンドベーカリーと協議してくふうしていきたいと思つております。

○ 八番 (石井武敏君) 健全なる精神は健全なる肉体にやどるといわれておりますが、日本の将来をにやう児童、生徒たちの食生活は大きなポイントになつてくる。このように考えます。給食の味の問題については今後十分なる検討していただきたい。このように思います。

次に、食事に変化をもたせるといふことでありましたけれども、種類のかわつたパンを早速取り入れていただきたい。このように思いますが、この点について御返答願います。

○ 教育長 (高木 正君) 種類のかわるものは現在も取り入れております。今後ともベーカリーと相談して一そう努力していきたいと思つております。

○ 八番 (石井武敏君) 今後さらなる研究を重ねていただきたいと思います。すなわち栄養価のあるものをいかに食



べさすかという問題であります。ひとつには、実際に食している生徒とともにアンケートを取つて傾向を調査する。そういう必要があると思います。給食センターにおいては今月はじめてセンター始まつて以来アンケートを取つたようでありすが、これはもつと早い時点において実施すべきであつたのではないか。このように思います。今後も定期的な実態の調査を行なつてよりよい給食の改善に努力していただきたい。かように強く要望いたします。

以上をもちまして私の質問を終わります。

○議長 (吉田勇治郎君) 暫時休憩いたします。

午後三時三十八分

休憩

午後三時五十六分

再開

○議長 (吉田勇治郎君) 休憩前に引き続き議会を開きます。

次、安西益男君御登壇願います。

(一八番議員安西益男君登壇) (拍手)

○一八番 (安西益男君) 最後を承わりまして御質問申し上げたいと思います。

まず、最初の第一点といたしましては、水道行政の一元化、この問題につきましては、今回期せずしてすでに二議員さんより強い要望も出ております。おむね論議されておる。このように存するわけでございます。若干私なりに市当局の方向につきましては御質問申し上げたい。かように存じておる次第でございます。

当館山市におきます水道施設の状況はまことに多様化しておりかつ不安定の現状にある。これは市民の認めるところと信ずるのでございます。特に夏季におきまふところの絶対量の不足というところは数カ所見受けられ、この先いつ解決される見通しのつかぬまま、将来の不安をいだいておるといふのが実情でございます。そうして何とか円滑なる運営ができないものかと切望しておるといふのが現実の問題ではなからうか。このように存じておる次第でございます。当然のことではあります。水道事業の行政上の意義はきわめて重要な役割を占めており、生活環境面からはもちろ



んのこと公共用、産業用と文化的な市民生活を営む上の基本的な施設であります。本市の上水道現況はダム水源、地下原水がその地域ごとに分離され、その地域ごとは供給されておりますが、全市民的な立場よりするならばこのような状況下にありますことは平等性を欠くものであり、全市水道行政の一元化への意向は好むと好まざるとによらず当然の処置と思われまゝす。諸般の事情もあろうかと存じますが、実現の可能性についてお伺い申し上げます。

なおまた、給水面につきましましては限界点にあります。現在水源確保の計画が進められておりますかどうか、この点もお聞かせ願いたいと思います。これは先ほどいろいろと市長のほうからも回答がございましたが、若干のちほどまたお伺いさせていただきます。このように存じておる次第でございます。

二点目といたしましては、教育費の負担金の解消、私はこの点につきまして率直に申し上げまして本市におきまゝる教育費の特に父兄負担軽減問題は、他市に先がけて実施の方向に入つていられる面がかなり見受けられる。事実多くの父兄の賛同も受けておるといふことも承知しております。そこで、さらに前進への立場に立つて今地域住民の間に関心の高まつておりますプール建設に伴う地元負担金の問題についてであります。これは本年度分につきましては前回に引き続き本議会におきましても多くの質疑がなされて、なお請願書も提出されており広範囲な立場で検討されるものと思われまゝすので、私は特に今後のプール建設に關しましての抱負についてどのような対策で進まれるのか、お尋ねいたしてみたい。このように存する次第でございます。

地元負担金の問題につきましては、時代の推移とともに住民の感覚は公費による建設へという要望が強まつていくことは間違いないものと信ずるものでございます。でありますだけに今後の建設申請にあたりましては、公費による申し出がなされてくると思いますが、当局はいかように対処されますや。方向をお示し願いたい。かように存するものでございます。なお、本年度につきましては予定されておるところはないと思ひますが、この点はいかがでしうか。したがつて、四十七年、四十八年にわたりまして残る小、中学校プール建設への計画を繰り込むべきであると思ひますが、この点お伺いいたします。



三点目といしましては、養老年金月額支給の実施ということでございます。現在の老令年金は年額千五百円でありますが、これを毎月千円ぐらいつつ高令者に支給していただけないか。このようなお願いでございます。昨今老人福祉対策に關しましてはきわめて重要課題として大きく取り上げられております。なかならず年金問題は最大の関心が寄せられており本市の年金制度についても同様に増額希望が強く、何とかこの老人の方々の願いをかなえてやれんものかと安ずる者は単に個人のみでなく、あらゆる人たちの一致した願いでもあると固く信ずるものでございます。

かつてはそれぞれの立場におきまして社会に大きく貢献し、加えて史上かつてない悲惨な戦争の中を国土をそしてまた民族を守るために生き抜いてこられたまことに尊い存在であるといわなければなりません。昨今ようやくこの方面の対策が改善されつつあるとはいえ諸外国の例からみればほど遠い感があります。福祉なくして政治なしといわれる現在当館山市におきましては福祉なくしては館山市政はないとの見地より、どうか毎月支給制度の実現にあたり御努力をたまわりますように強く訴えて参りたい。このように存じておる次第でございます。

最後に、市民の要望、陳情についてということでございます。市民相談をより活発に。要望案件は納得のいく回答をそして現地調査等一段と処理方法の合理化を検討する必要があると思ひます。館山市の市民相談受理件数は非常に少ないのではないかと。かようにみております。中には市に頼んでもなかなかやってくれないものと思ひこんでいる人もみられます。事実、要望、陳情に納得のいく回答が得られないという人たちもおるわけです。たとえば、市政を語る会等におきまして要望されたものに對してその処置がなされておらず市当局の態度に非常に誠意を欠くものがしばしば見受けられるという声も耳にしておるわけでございます。また、この点につきましては、いろいろ御苦労なことが多々あることと思ひますが、このように思ふ次第でございます。担当課におかれましては、いろいろ御苦労なことが多々あることと思ひますが、極力市民の相談、申し出には前向きに取り組んでいただき、市民の期待にそうよう御努力いただきたいと思ふ次第でございます。以上をもちまして終ります。



市長（本間 譲君） 安西議員に対しましてお答えをいたします。

最初は水道問題でございますが、これは市民の一日も欠くべからざる水でございますまして、きわめて重要なことであることは当然のことでございますが、その水源の確保ということは大きな問題であるわけでございますが、現在には地下水あるいはダム等の施設によつてやつておるわけでございますが、現在の情勢ではまだまだ安心という程度にはならない。つまり需要が非常にふえて参りまして、なかなか水需要というものは大きいものがあるわけであります。現在におきましては、南部水道はかなりの成績でやつておるわけですが、さらにあれから西岬に通ずる西部水道は現在建設中でございますが、これも地下水によつて水源を求めておるわけでございます。また西岬水道も地下水によつてさく井によつてやつておるわけでございます。宮城水道はダムによつてやつておりますが、あまり水がたまりませんで困つておるんですが、これにつきましては、これを利用しておる防衛庁関係、航空隊関係が主たるものでございますが、その需要にさえ満たないというような状況でございますので、現在は防衛庁にお願いしまして今水源地を大体見当をつけてこれに助成をしていただきまして実施をしよう。こういうことでございますが、それによつてある程度の緩和も期待されると思ひますが、将来を考へてみたときには、今考へられておりますことは、畑地区にいい水源地がございますのであれを水道用水の供給源として、私が今考へますのは、白浜はあんなに水道の水が豊富であるのに今年は時間給水をやつたということ、千倉あたりも水道をほしがつて簡易水道一つ、二つやるそうです。千倉、白浜、館山と相談して畑地区に相当のダムをつくつて原水の供給の場所を設置したらどうか。こういうことも考へておるわけでございます。

それから、水道の一元化につきましては、先ほど渡辺議員さん、辻田議員さん等にも申し上げましたとおり、これはまあこれから果に働きかけて一括して、三芳水道を含めて県営にもつていきたいと考へておるわけでございます。これも早く実現するように努力いたしたいと考へております。

それから、プール建設に対する地元負担金についての御質問でございますが、プール建設は従来も地元のPTAや父兄の方々の切なる要望によりまして、これを建設をしておるわけでございまして、市のほうからやろうというようなこ



とは今まではなかつたわけでございますが、今後もやはり地元の要望にこたえて予算の許す範囲において設置をいたしたいと考えております。今後の計画についてはそういうことでございますので、今どこを本年やるかと、再来年どこをやるとかそういうような計画は現在持つておられないわけでございます。

それから、プールの建設の寄付金については前にも申し上げましたように、割り当てて強制的にするようなことはいたしません。やはり父兄の方々が子供のため、学校を愛するためぜひつくりたいという寄付は喜んで受け入れをしたと考へておるわけでございます。先ほども申し上げましたが、いろんな御意見もあろうかと思ひますけれども、とにかく館山市はPTA会費も市で負担しているし、学用品も市で負担しているし、幼稚園の授業料も取らないというんだから、私どもはプールぐらいは自分の範囲内において寄付をしていいプールをつくつて子供のためにやりたいという人もかなり多いわけでございまして、こういう方々の気持も大いに尊重していかなければならないと考へておるわけでございます。

それから、養老年金月額支給の実施についてでございますが、老人の福祉につきましては私も前から市民に老人を大事にするということとは人間最高の道徳というふうに自分でいつておるんですが、やはり老人を大事にするという気持は義理人情いろんな面にもそれが現われてくるんではないかと思ひまして、老人を大事にすることが一番いいということでは皆さんの御協力を得ましていろいろ施策をやつて参つたわけでありますが、年金につきましては一昨年でしたか、館山市では千五百円に値上げして八十六歳以上のものを去年からでしたか、八十歳以上に引き下げを行なつた次第でございます。しかし、安西議員さんのおつしやるようにこれじやとてもでございますが、これは私は市町村でそんなにやれるものではない。また政府でも三カ年計画ぐらいで相当の年金を支給するというような新聞にも出ておつたようにございますので、政府がもつともつとこれはやるべきじやないかと考へておるわけでございますが、来年度予算については今安西議員さんの月額、増額するということのようなことはまだちよつと館山市としては予算の面からしましても早いじやないかと思ひますが、その後においてまた考へていきたいと思ひます。ただ、一番問題点でありますことは、年寄



りが病氣になつて金を出して医者に見てもらつてなおすということはいいい人もいますけれども、なかなかそうでない人もたくさんおりますから、現在では七十五歳以上の老人に対してよそでは国民健康保険の加入老人だけを大体対象として無料としていますけれども、館山市は社会保険まで含めて七十五歳以上の老人の医療費を免除しておるわけでございますが、来年度はこれを七十歳までに引き下げてやりたい。こういうふうに今計画しておりますが、たつた五つの違う人を医療市費負担にはなかなか相当の金があるわけですね。しかしながら、これは今検討してなるべく七十歳以上に医療費無料こういうことをやりたいと思いますので、安西議員さんのおつしやることもそれは本当のことでございますけれども、これを実施してその後市としては考えさしていただきたいと思ひます。決してこれだいいとは思ひえておりませんから来年度はそれは無理ですが、その次の年あたりから安西さんのおつしやるようなことを検討して少しでも老人に對する小使といひますか、ふやしてやることはいいんではないかと考えておる次第でございます。

それから、市民相談室についてのことでございますが、いろいろの市民の方々には不満もあらうかと思ひますが、私は市民の方々が少しのことでも、たとえば富崎あたりにしても豊房の山の中にしても大ぜいで出てきて費用を使つていくということとはなかなかたいへんなことでありますから、陳情、相談そういうものはなるべく簡素化して市民の負担を軽減したいという考え方からしまして、昨年からでしたか、市民に陳情は電話でもはがきでも書面でも何でもけっこうだからよこしていただきたい。そうしてそれに対してできるとか、できないとかの回答は一週間以内には必ずやる。こつちでそれを見てわからないわからなければ係員をその方のところにつかわしていろいろのことをやるからということとで現在やつておるわけでございますが、私どもが県庁あるいは国に陳情に行きまして、一生懸命やつていつてもいいかげんに扱われて効果がなくて腹が立つこともありまして、私はそういうことからして市はやはり市民にそういう気持ちを抱かせないようになるべく経費を使わずに、市民の声を聞いてそれを改善していくことがいいというよりなこととでそういう陳情方法を取つたわけでございますが、今安西議員さんのほうからいろいろの御指摘もございましたが、いろいろのこともあるかと思ひますけれども、その精神に従つて市民にサービスを強化して參る考えてございますので、また



安西議員さん今後ともいろいろ御注意なり、御指導を願いたいと存ずるわけでございます。以上申し上げまして、安西議員さんの御質問にお答えをいたした次第でございます。

○ 一番 (安西益男君)

水道一元化、このことにつきましては、先ほども申し上げましたようにすると御説明もございまして、いろいろ御事情もあろうかと存じますが、いずれにしても県移管ということにつきましてはほど遠い感があります。そういうことでひとつその方向に何とか努力願いたい。このように強く要望いたしておきたいと思えます。それとなおいろいろ問題になりますことは水源確保ということでございます。これは市長さんから御説明もありました。県、国からの援助もあるというお話し等もございましたし、さらにまた豊房の畑地区ですか、このことは私も実はあの辺等も調査いたしまして、非常に水源池になるんではないか。数回現地を調査した経験もございまして、実際に市の方向もそのような方向に調査を進めておる。広域的な立場で白浜等と話し合いをということでございますので、この点につきましては、一そうの推進をはかつていただきたい。このようにお願いする次第でございます。

ところで、水道の県下におきまする館山の水準、県下の水準にどういり位置にあるかという点をまず一点お聞かせ願いたいと思えます。

○ 水道課長 (大嶋重義君)

お答え申し上げます。県の水道普及率でございますが六七％でございます。それから館山市の本年度四月一日現在における水道普及率でございますが、五五・二％でございます。

○ 一番 (安西益男君)

今、課長さんから御説明がありましたように、県下をだいたいぶ下まわつておるといのが現状でありますので、先ほども申し上げましたように、畑方面の調査あるいは供給源に対する計画というものがすでどの程度進んでおるかというような、これから取り組むということになります。もう具体的なそういう面まで入つてゐるかどうか。この点ちよつとお伺いしたいと思えます。

○ 水道課長 (大嶋重義君)

お答え申し上げます。第一に、宮城水道の拡張の關係でございますが、これは先ほど市長から説明のありましたとおり、防衛施設周辺の民生安定補助事業としてこれを行ないたいということでございまして



八  
タ  
すてにこれは数カ月前から折衝をいたしております。あるわれわれの事務案を持つておりますけれども、現在まだ調査の段階でございまして、いろいろと地元等との交渉等もございしますので、計画の具体的内容につきましてはさしひかえさしていただきたいと思うわけでございますけれども、地元のほうでも非常に従前とかわりまして、非常に好意的な考えを持つておられますので、私どものほうではこれの可能性を期待しておるわけでございます。

それから、畑地区でございますが、これは私どもの下調査程度でございますけれども、先般も現地におもむきまして調査したわけでございますけれども、あそこの地区はこの八月の日でりの濁水期におきまして、あの川を流れておる水量は、私どもの職員も増岡地区のときに関係した職員もおりますけれども、増岡のダムの流れている水量よりも多いんではないかというような話でございまして、ダムの水源としては非常に有望な水源だと私どもは思っております。これからいろいろと交渉なり、調査をいたしていきたいという段階でございます。

○ 一八番 (安西益男君) 水道に關しましては、非常に御努力の傾向だということでございますので、畑あるいは各方面かと思いますが、そういうつた面で非常に住民の感情もその方向に協力的であるということでございますので、ぜひ一そのの努力を願いたい。このように思う次第でございます。

次のフルの問題でございますが、私は特に先般ども申し上げましたように、これからの新しい建設についてはどうか、これは今の状況からおしまして非常に時代感覚という面から時代の推移という面から、今の感覚と違つた方向にいくんではないか。そういうふうに思うわけでございます。そこで、来年度は計画がないか、この点お聞きしたわけであります。のちほどお聞かせ願いたいと思いますが、一中も移転ということでは来年度はおそらくはできないでしょう。館小もご存じのように収造という面あるいは富嶺は土地がないという面から来年度の計画はどうかというふうに思っております。そこで四十八年、四十九年ということになろうかと思ひます。その時点になります。その時点になります。住民感覚が大きく違つてくるということは当然その方向にいくんではないかと思ひますので、その方向についての計画も今から取り組んでいつていただきたい。このように思う次第でございます。この点につきましては、以上の



点で終りたいと思います。

(七〇)

老人に対する月額の支給というお願いまた要望でございますが、これは確かにいろいろの面で御努力されてあるという点等もございます。しかしながら、何としても老人の最大の念願はやはり年金の月額支給されるということがどれほど大きな喜びであるか。これは等しく心待ちにその実現を待つておる。そういう声を多くから聞いておるわけでございます。しかしながら、予算等の関係もございまして、米年は無埋か、再来年は何とか実現したいという方向でございました。これはぜひともでき得るならば米年度の予算に計上できるようにおとりはからい願いたい。このように強く要望しておきたいと思ひます。

最後の市民相談の市民の要望、陳情という件につきまして、これは市の玄関にもいまして市長さんのおつしやいましたように、一週間に附には連絡回答するということでございます。さらにまた内容によつてはすぐ担当者がうかがい調査し、明確にいたしますというふうなことになるわけです。さらにまた重要なことは担当課長乃至は市長がうかがう。こういうふうにはつきりと看板といいますか、書いてあります。そういう面からしまして私は二、三の例をあげてお尋ねしたい。かように思ふものでございます。

実は、夏ちよつと前にこれは大賀の住宅の自治会長さんが二、三点要望ございまして、わざわざ休んで同行したわけがあります。二点はほほおおむね了解しておりますが、それは前から話をし、お願いしてあつたことでございますので特にあそこのかにた川の鉄条網が張つてあるわけですが、一〇〇メートルぐらい、それを夏前に子供が危険なので夏前にお願ひできないものかというふうな御要望があつたわけです。これは予算がないからというふうなことで米年度何とかというお話しでございましたけれども、あつた市の方向としては明確に調査をしてという点からするならば、実際にまだ新年度かわつて間もない時期に事業としても、費用としてもおそらく一万五千元乃至は二万円程度ではなからうか、子供が非常に危険なんだ。何とかできないものかということに対してはやはり担当課としましては、実際の現地を調査し、そうして誠意ある態度を示していただきたいのだ。かような強い要望があつたわけです。確かにおもてには書



いてありますけれども、そういうあまり予算を伴わないという問題が予算がないのだということで簡単に片づけられてしまふということがあるとするならば、私は大いに反省していただきたい。また検討していただきたいというふうに、さらに住民の人たちが納得できる、やはり市長さんから先ほどお話しがありましたように、十分で、できないものはともかくとしても納得できる回答をしていただきたい。それならばどの程度の御要望、市民の要望にこたえられるか問題にもよると思いますが、金銭的な面、予算等の面から予算がないのだということになれば住民としてはいたし方がないことだと思います。でありますならば、そうした要望に前向きに対処するということ限度といえますか、予算の程度どのくらいまでのことならばできるのだ。担当課によつて違ふかもしれませんが、これに対処する姿勢そういう面から基本的な姿勢から市民が納得いくような方向に進んでいつていただけないものか、かように存じておりますが、この点につきましてちよつとお尋ねしたいと思います。

○ 秘書課長（太田博雄君） 担当窓口といたしまして私のほうからお答え申し上げます。ただいま安西議員さんの御質問の要旨よくわかつた次第でございます。いずれにいたしましても、ただいまの具体例をお聞きいたしますと、わずかの予算でできなかつたということでございますけれども、今後といたしましても、私のほうは予算はさておきまして陳情等の内容に重点を置きまして、さらに各課との連絡を密にしたいという考えでありますので、よろしくお願いいたします。

○ 市長（本間 譲君） ただいま安西さんのかにた村付近のことについて予算がないちゆうようなことでできなかつたわけでございますが、私はどうしても緊急の場合に使える予算をできるだけ議会で認めてもらつて、そういううちから出せるようなことを来年度は考えていきたいと考えておりますが、そういう予算があればその予算の中から緊急の仕事ができるようにすればわずかのことはできると思いますが、今は各項目によつてその目的が明記されて金額も予定してございますが、いつでも緊急の場合にやり得る予算をできるだけ認めてもらつてそういうことにしたいと考えておりますからちよつと申し上げておきます。



○ 一八番 (安西益男君)

ぜひともそのような方向で予算等も考えていただきたいと思ひます。事実、あのようになりすわけですから、いろいろの問題が当然くると思ひます。しかしながら、そういうたような予算も何にもないようなものを皆さんにPRしても断わるしかないわけです。ですから、きめられた予算の中しかないのだということになれば、どんな御相談も陳情、要望にも前向きにこたえることにはならないということになります。十分市長さんお話しになるように緊急というこれだけの市民全体の要望ということになりますと相当妙なわけでございます。そういうた点では十分今後御検討願ひたい。このように存する次第でございます。

それから、私はやはり今後の方針としては公共性といひましようか、市民にこたえる姿勢といひましようか、たとえば排水側溝といひますか、そういうた市民からの陳情をこれは市民課のほうだ。これは土木課のほうだということ。市民の方がどつちに行つていかかわからない。そういう状況があります。いろいろの御都合があろうかと思ひますが、どちらにしても庁内連絡をとつていたたい住民の御要望に対処する。そういうたまず先ほど申し上げました姿勢、そういうた誠意ある姿勢というものがやはり大事ではないかというふうに考えます。私のほうの担当ではないのだということだけではなしに、あちらに行つてごらんさいという姿勢をもう一歩考えていただきたいということをお願いするわけでございますが、なお参考のために十分御承知かと思ひますが、松戸等ではすぐやる課、これは非常な市民全体から好評を博しておる。非常にこの点におきましては市民相談が多い。衛生課乃至は土木課の要望が大体八〇％である。このあり方といたしましては、四十六年度予算をしまして当初予算が八百万というふうに聞いております。また他市におきましては、ある市等におきましては苦情処理係、そういう一つの課の中にそういうものを設置しまして、すぐ市民の要望に対処できるような約三百万円ぐらいの当初予算を組んで専門的なそういう課に統一して努力しておるといふようなところもあるわけでございますので、でき得るならばおそろくは市民全体の方たちの御要望はそういうた面にもお願い、御相談という面が多かろうというふうに考えらるわけでございますので、たとえば活動等はほとんどが民間業者に渡す仕事が多に多い。きめられた業者はそれを渡しておるといふことも聞いておりますが、あるいは場合によつては二



百万、三百万という予算を立てていただいてそうした方向という面の、市民にすぐたえろというふうなそういう方向等も十分御検討願えろんではないかというように感じておりますが、そういった方向のお考えがあるかないか。その点御要望がとおるかというふうなこともお聞かせ願いたいと思いますし、さらにまた消防関係になりますが一々市民のいろいろの問題をなかなか聞いてやつていくことは御苦勞があると思います。しかしながら、納得いくようなそういう回答は必要ではないか、富崎地区に大正年間からただ市で用水池を使つておるのだ。お願いしてもさつぱりはつきりしてくれない。そういった苦勞等もありますので、やはり市民の困ることはより以上にこちらが方向をきめてやるべきではないかというふうなことも考えておりますので、その点等も御検討願つたらというふうに思うわけでございます。そういうことで先ほど他市におきまする例等も申し上げたわけでございますが、そういうことが可能かどうかという点についてちよつとお聞かせ願います。

○ 助役 (畠山 伝君) お答え申し上げます。常に私も市長から市民の方々のために懇切に仕事を進めるように、それに事務処理を迅速、早くするようにというふうなことはをいただいておりますが、私もそういうふうな気持ちでいたしておるつもりでございますけれども、いろいろのこともあるかと思ひますけれども、先ほど市長のほうから来年は予算関係につきましても若干お許しただけますならば、そういうような形で迅速に処理していきたいというふうな話もございましたので、私も今後とも懸命に御期待にそういう努力して参りたい。かように考えておりますのでよろしくお願いいたします。

○ 一八番 (安西益男君) 大体以上の点でぜひともお願いしたいということでございます。いろいろと細かい点はございしますが、やはり私どもはただそういうことをどうこうということでなく、住民本位という面からお願ひはお願いとし、そういう面から御努力を願ひという点から十分対処して今後やつていただきたい。このようにお願いいたします。して私の質問を終わります。



散

会

午後四時四十二分

散

会

○ 議長 (吉田勇治郎君) 以上により通告者による一般質問を終わります。よつて本日の会議はこれにて散会いたします。次会は明九月二十一日午前十時開会いたします。その議事は認定第一号乃至第七号、報告第四号及び議案第六十八号乃至七十二号の各案件の審議といたします。長時間ごくりさまでした。

○ 本日の会議に付した事件

一、行政一般質問



